### SPARC M10 システム

プロダクトノート XCP 2042 版



マニュアル番号 : C120-E699-02 2013 年 10 月 Copyright © 2007, 2013, 富士通株式会社 All rights reserved.

本書には、オラクル社および/またはその関連会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

オラクル社および/またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的 所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律お よび国際条約により保護されています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて 頒布されます。オラクル社および/またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可 なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の 提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを 付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる 種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれてい る場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および/またはその関 連会社、および富士通株式会社ヘライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPLまたはLGPLが適用されたソースコードの複製は、GPLまたはLGPLの規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および/またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされているBerkeley BSDシステムに由来しています。

UNIXはThe Open Groupの登録商標です。

OracleとJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

SPARC Enterprise、SPARC64、SPARC64ロゴ、およびすべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを 受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ド キュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

免責条項:本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および/またはそのいずれかの関連 会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような 契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および/またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、ま たは本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま 提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか 黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このよ うな契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および/またはそのいずれかの関連会社は、いかなる 法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるい は間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、 適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定さ れない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われな いものとします。

## 目次

はじめに vii 第1章 ソフトウェア要件 1 XCP/Oracle Solarisおよび必須SRU/パッチ 1 XCPおよびOracle Solaris SRU/パッチ/Oracle VM Server for SPARCの入 手 4 ウェブブラウザ 4 第2章 XCP 2042に関連する情報 5 XCP 2042の新着情報 5 SPARC M10 システム ラインナップ 5 留意点および制限事項 6 OpenBoot PROMに関する留意点 6 CPUメモリユニットやマザーボードユニットの保守に関する留意点 6 CPUコアアクティベーションに関する留意点 7 XSCF Webに関する留意点および制限事項 7 ファームウェアアップデートに関する留意点 8 その他の留意点および制限事項 8 XCP 2042での不具合と回避方法 11 第3章 ソフトウェアに関する情報 13 留意点および制限事項 13 Oracle VM Server for SPARCに関する留意点 13

Opensslを使用する場合の留意点 14

リモート保守サービスに関する留意点 14

- XCPに関する不具合と回避方法 15
  - XCP 2042で発生しうる不具合と回避方法 15
  - XCP 2042で解決された不具合 24
  - XCP 2042より前の版数で解決された不具合 26
- Oracle Solarisに関する不具合と回避方法 38
  - すべてのバージョンのOracle Solarisに関する不具合と回避方法 38
  - Oracle Solaris 10に関する不具合と回避方法 47
- 第4章 SPARC M10-1のハードウェアに関する情報 49
  - 留意点および制限事項 49
    - 外付けDVDドライブの使用に関する留意点 49
    - USBメモリの使用に関する留意点 49
    - ハードウェアRAIDに関する留意点 50
  - SPARC M10-1のデバイスパス 51
  - ハードウェアに関する不具合と回避方法 53
- 第5章 SPARC M10-4のハードウェアに関する情報 55
  - 留意点および制限事項 55
    - 外付けDVDドライブの使用に関する留意点 55
    - USBメモリの使用に関する留意点 55
    - ハードウェアRAIDに関する留意点 56
  - SPARC M10-4のデバイスパス 57
    - 初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合 57
    - 初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合 59
  - ハードウェアに関する不具合と回避方法 60
- 第6章 SPARC M10-4Sのハードウェアに関する情報 61
  - 留意点および制限事項 61
    - 外付けDVDドライブの使用に関する留意点 61
    - USBメモリの使用に関する留意点 61
    - ハードウェアRAIDに関する留意点 62
    - SPARC M10-4Sの活性/通電増設に関する制限事項 63
    - クロスバーボックスの交換に関する制限事項 63

拡張接続用ラック2の増設に関する制限事項 64

SPARC M10-4Sのデバイスパス 65

初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合 65

- 初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合 69
- ハードウェアに関する不具合と回避方法 74

第7章 PCIボックスのハードウェアに関する情報 75

PCIボックスに関する不具合と回避方法 75

第8章 マニュアルの変更内容 77

 『SPARC M10 システム インストレーションガイド』の変更内容 77 クロスバーケーブルの変更(拡張接続用ラック2を後から増設する場合) 78

PCIボックスにケーブルを接続する 80

『SPARC M10-1 サービスマニュアル』の変更内容 81

ケーブルガイドにケーブルを収納する 83

『SPARC M10-4/M10-4S サービスマニュアル』の変更内容 87

PCI Expressケーブルを取り外す 89

PCI Expressケーブルを取り付ける 101

CPUメモリユニット(上段)を取り付ける 108

クロスバーケーブル (電気) を取り外す 110

クロスバーケーブル (電気) を取り付ける 111

クロスバーケーブル (光) を取り外す 111

クロスバーケーブル(光)を取り付ける 112

『SPARC M10 システム版 PCIボックス サービスマニュアル』の変更内容 113

リンクボードにアクセスする 113

交換時の留意点 114

『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の変更内容 116
 『SPARC M10 システム ドメイン構築ガイド』の変更内容 117
 『SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュアル』の変更内容 118
 『SPARC M10 システム はじめにお読みください』の変更内容 118

付録 A SPARC M10-1のケーブルキットを保守する 119

ケーブルキットの位置 119

ケーブルキットを保守する前に 121

保守の形態 121

- ケーブルキットを取り外し可能な状態にする 121
- ケーブルキットを取り外す 122

ケーブルキットにアクセスする 122

- ケーブルキットを取り外す 123
- ケーブルキットを取り付ける 127
  - ケーブルキットを取り付ける 127

筐体を復元する 129

- システムを復元する 130
- 付録 B クロスバーボックスのケーブルキットを保守する 131
  - ケーブルキットの構成 131

クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード間を接続するた めのケーブル 131

ターミナルボード-ファンバックプレーン間を接続するためのケーブル

133

- ケーブルキットの位置 134
- ケーブルキットを保守する前に 135

保守の形態 135

保守のながれ 136

- ケーブルキットを取り外し可能な状態にする 136
- ケーブルキットを取り外す 137

クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード間のケーブルを 取り外す 137

ターミナルボード-ファンバックプレーン間のケーブルを取り外す 142 ケーブルキットを取り付ける 150

クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード間のケーブルを 取り付ける 150

ターミナルボード-ファンバックプレーン間のケーブルを取り付ける 151 システムを復元する 157

### はじめに

本書では、最新のXSCF Control Package(XCP)の情報とともに、SPARC M10 シス テムのハードウェア、ファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する 重要かつ最新の情報について説明しています。

注-本書に対応したXCP版数より新しいXCPがリリースされている場合、最新のXCP版数に 対応するマニュアルでのみ記載内容が更新されます。本書とともに、以下のウェブサイトで 最新のXCP版数に対応するマニュアルを参照して、記載内容や使用方法など、ご使用のXCP 版数に関連するマニュアルの訂正がないかご確認ください。

国内サイト
 http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual/
 グローバルサイト
 http://www.fujitsu.com/global/services/computing/server/sparc/downloads/manual/

なお、SPARC M10 システムは、Fujitsu M10という製品名でも販売されています。 SPARC M10 システムとFujitsu M10は、同一製品です。

ここでは、以下の項目について説明しています。

- 対象読者
- 本書の利用のしかた
- 関連マニュアル
- 廃棄・リサイクルについて
- マニュアルへのフィードバック

対象読者

本書は、コンピュータネットワークおよびOracle Solarisの高度な知識を有するシス テム管理者を対象にして書かれています。

## 本書の利用のしかた

本書は、SPARC M10 システムの、すべてのモデルを対象に書かれています。ご使用 のサーバに応じて、以下の表に示すように、関連する項目をお読みください。

本書内の章タイトル	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S
第1章 ソフトウェア要件	$\bigcirc$	$\bigcirc$	0
第2章 XCP 2042に関連する情報	0	$\bigcirc$	$\bigcirc$
第3章 ソフトウェアに関する情報	0	$\bigcirc$	$\bigcirc$
第4章 SPARC M10-1のハードウェアに関する情報	0		
第5章 SPARC M10-4のハードウェアに関する情報		0	
第6章 SPARC M10-4Sのハードウェアに関する情報			0
第7章 PCIボックスのハードウェアに関する情報	〇(導入時)	〇(導入時)	〇(導入時)
第8章 マニュアルの変更内容	0	0	0

ファームウェア、ソフトウェアに関連する章(第1章、第2章、第3章)は、すべての モデル共通の情報となっています。この中には、特定のモデルだけに関する記述も含 まれています。この場合は、該当するモデル名が明記されています。

ハードウェアに関する情報は、モデルごとに独立した構成(第4章、第5章、第6章) となっています。このうち、すべてのモデルに共通する内容は、ハードウェアのすべ ての章に記載されています。そのため、複数のモデルのハードウェア情報を確認する 場合は、記載内容が重複していることがあります。

PCIボックスに関する情報(第7章)は、PCIボックスを導入している場合にご確認ください。

マニュアルの変更内容(第8章)は、マニュアルごとに記載されています。お手持ちのマニュアルに変更内容があるかどうかご確認ください。

### 関連マニュアル

ご使用のサーバに関連するすべてのマニュアルはオンラインで提供されています。

- Oracle Solarisなどのオラクル社製ソフトウェア関連マニュアル http://www.oracle.com/documentation/
- 富士通マニュアル
   日本語サイト

http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual/

グローバルサイト

http://www.fujitsu.com/global/services/computing/server/sparc/downloads/manual/

注一本書で説明する情報は、SPARC M10 システム関連マニュアルの情報よりも優先されます。

次の表に、SPARC M10 システムに関連するマニュアルを示します。 本製品を使用する場合は、関連するマニュアルを熟読してください。

SPARC M10 システム関連マニュアル (\*1)

SPARC M10 システム はじめにお読みください/SPARC M10 Systems Getting Started Guide (\*2)

SPARC M10 システム 早わかりガイド

SPARC M10 Systems Important Legal and Safety Information (\*2)

Software License Conditions for SPARC M10 Systems/ソフトウェアライセンス使用許諾条件

SPARC M10 Systems Safety and Compliance Guide/安全に使用していただくために

SPARC M10 Systems Security Guide

SPARC M10システム/SPARC Enterprise/PRIMEQUEST共通設置計画マニュアル

SPARC M10 システム インストレーションガイド

SPARC M10-1 サービスマニュアル

SPARC M10-4/M10-4S サービスマニュアル

SPARC M10 システム版PCIボックス サービスマニュアル

SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド

SPARC M10 システム ドメイン構築ガイド

SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュアル

SPARC M10 システム プロダクトノート

SPARC M10 システム 用語集

\*1: 掲載されるマニュアルは、予告なく変更される場合があります。

\*2: 印刷されたマニュアルが製品に同梱されます。

# 『SPARC Enterprise Software DVD』DVD-ROM で提供されるマニュアル

これは富士通のお客さま向けの情報です。

リモート保守サービス

Enhanced Support Facilityユーザーズガイド REMCS編(J2X1-7753)

### ファームウェアに関する情報

これは富士通のお客さま向けの情報です。

ご使用のサーバのファームウェアは、以下の方法で入手してください。

- 国内サイト ファームウェアは、SupportDeskを契約されているお客さまにおかれましては、 SupportDesk-Webから入手が可能です。
- グローバルサイト ファームウェアの最新ファイルの入手方法については、営業担当者にお問い合わ せください。

以下のファイルが提供されます。

- ファームウェアプログラムファイル (XSCF Control Package (XCP) ファイル)
- XSCF拡張MIB (XSCF-SP-MIB) 定義ファイル

注-XSCF Control Package(XCP): XCPとは、SPARC M10 システムを構成するハードウェ アの制御プログラムをパッケージ化したものです。XCPファイルには、XSCFファームウェア、 OpenBoot PROMファームウェア、Power-On Self Testファームウェア、そしてハイパーバイ ザファームウェアが含まれます。

## 廃棄・リサイクルについて

これは富士通のお客さま向けの情報です。

製品の廃棄やリサイクル(有償)については、営業担当者にお問い合わせください。

## マニュアルへのフィードバック

本書に関するご意見、ご要望がございましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、 ページおよび具体的な内容を、次のURLからお問い合わせください。

- 日本語サイト http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual/
- グローバルサイト http://www.fujitsu.com/global/services/computing/server/sparc/downloads/manual/



## ソフトウェア要件

ここでは、SPARC M10 システムを使用するために必要なソフトウェア要件について 説明します。

- XCP/Oracle Solarisおよび必須SRU/パッチ
- XCPおよびOracle Solaris SRU/パッチ/Oracle VM Server for SPARCの入手
- ウェブブラウザ

## XCP/Oracle Solarisおよび必須SRU /パッチ

SPARC M10 システムでサポートされるXCP、Oracle Solarisおよび必須SRU/パッチは、次のとおりです。

表 1-1 XCP/Oracle Solarisおよび必須SRU/ハッナのサホート
---

サーバ	ХСР	Oracle Solaris	必須パッケージ(*4) 必須製品(*5)	必須SRU(*4) 必須パッチ(*5)
SPARC M10-1	2012以降	Oracle Solaris 11.1	system/ldoms(*1) system/ldoms/ldomsmanager(*2)	SRU1.4以降(*3)
		Oracle Solaris 10 1/13	Oracle VM Server for SPARC 3.0以降 (*3)	なし
SPARC M10-4	2012以降	Oracle Solaris 11.1	system/ldoms(*1) system/ldoms/ldomsmanager(*2)	SRU1.4以降(*3)
		Oracle Solaris 10 1/13	Oracle VM Server for SPARC 3.0以降 (*3)	なし
SPARC M10-4S (筐体間直結)	2031以降	Oracle Solaris 11.1	system/ldoms(*1) system/ldoms/ldomsmanager(*2)	SRU1.4以降(*3)
		Oracle Solaris 10 1/13	Oracle VM Server for SPARC 3.0以降 (*3)	なし
SPARC M10-4S (クロスバー	2042以降	Oracle Solaris 11.1	system/ldoms(*1) system/ldoms/ldomsmanager(*2)	SRU1.4以降(*3)
ボックス経由 接続)		Oracle Solaris 10 1/13	Oracle VM Server for SPARC 3.0以降 (*3)	なし

\*1:制御ドメインおよびゲストドメインに必須です。group/system/solaris-large-serverおよびgroup/system/solaris-small-serverに含まれます。

\*2:制御ドメインのみに必須です。group/system/solaris-large-serverおよびgroup/system/solaris-small-serverに含まれます。

\*3:制御ドメインのみに必須です。

\*4: Oracle Solaris 11の場合。

\*5: Oracle Solaris 10の場合。

注-SPARC M10システムでOracle Solaris 11.1 をDVDメディアからインストールする場合、 または、Oracle Solaris 11.1 をDVDメディアからブートする場合、以下の2種類のメッセージ が出力されます。これらのメッセージはインストール作業には影響ありませんので、無視し てください。

[メッセージ例1] Dec 21 02:18:22 solaris genunix: NOTICE: core\_log: ldmd[1978] core dumped: /tmp/core Dec 21 02:18:22 solaris svc.startd[9]: ldoms/ldmd:default failed fatally: transitioned to maintenance (see 'svcs -xv' for details)

[メッセージ例2]

SUNW-MSG-ID: SMF-8000-YX, TYPE: defect, VER: 1, SEVERITY: major EVENT-TIME: Fri Dec 21 02:18:50 UTC 2012 PLATFORM: ORCL,SPARC64-X, CSN: 2081210008, HOSTNAME: solaris SOURCE: software-diagnosis, REV: 0.1 EVENT-ID: 5cf4edb8-0613-cbe0-acb1-a9a28a2fac10 DESC: A service failed - a start, stop or refresh method failed. AUTO-RESPONSE: The service has been placed into the maintenance state. IMPACT: svc:/ldoms/ldmd:default is unavailable. REC-ACTION: Run 'svcs -xv svc:/ldoms/ldmd:default' to determine the generic reason why the service failed, the location of any logfiles, and a list of other services impacted. Please refer to the associated reference document at http://support.oracle.com/ msg/SMF-8000-YX for the latest service procedures and policies regarding this diagnosis.

**注**-SPARC M10 システムにOracle Solaris 11.1をインストールした場合、Oracle Solaris起動 時に以下のようなメッセージが出力されます。

#### [メッセージ例]

WARNING: failed to instantiate provider ldmd for process 753 WARNING: failed to instantiate provider ldmd for process 753 Sep 24 06:15:59 svc.startd[11]: svc:/ldoms/ldmd:default: Method "/opt/SUNWldm/bin/ldmd\_start" failed with exit status 95. Sep 24 06:15:59 svc.startd[11]: ldoms/ldmd:default failed fataly: transitioned to maintenance (see 'svcs -xv' for details)

Oracle Solaris 11.1をインストールしたあと、SRU1.4以降を適用してください。 Oracle VM Server for SPARCパッケージがSPARC M10 システムに対応した版数に更新され、 このメッセージは出力されなくなります。

その他のOracle Solarisの情報については、「Oracle Solarisに関する不具合と回避方法」 を参照してください。

## XCPおよびOracle Solaris SRU/パッ チ/Oracle VM Server for SPARCの入 手

最新のXCPファームウェア、およびOracle Solaris SRU/パッチ/Oracle VM Server for SPARCは、SupportDeskを契約されているお客さまにおかれましては、SupportDesk-Webから入手が可能です。

## ウェブブラウザ

XSCF Webの動作が確認されているウェブブラウザは、表 1-2のとおりです。その他のXSCF Webの情報については、「XSCF Webに関する留意点」を参照してください。

表 1-2 動作確認済みのウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft Internet Explorer	8.0および9.0
Firefox	10.0以降



## XCP 2042に関連する情報

ここでは、XCP 2042に関連する情報について説明します。

- XCP 2042の新着情報
- SPARC M10 システム ラインナップ
- 留意点および制限事項
- XCP 2042での不具合と回避方法

## XCP 2042の新着情報

ここでは、XCP 2042で新規に追加された機能を説明します。

 クロスバーボックスを経由して、SPARC M10-4Sを複数台接続できるようになり ました。詳細は「SPARC M10 システム ラインナップ」を参照してください。

## SPARC M10 システム ラインナップ

SPARC M10システムは、以下のモデルで構成されています。

- SPARC M10-1 1 CPUで構成され、省スペースと高性能を両立したコンパクトなモデルです。
- SPARC M10-4
   4 CPUまたは2 CPUで構成された筐体を、単体で使用するモデルです。
- SPARC M10-4S 4 CPUまたは2 CPUで構成された筐体を、ビルディングブロックと呼ばれる方式に より、複数台接続できるモデルです。

クロスバーボックスを経由して接続すると、最大16台まで拡張できます。また、 最大4台構成とする場合は、筐体間を直接接続することもできます。

■ PCIボックス

I/Oスロットを拡張するためのオプションの筐体です。PCI Express (PCIe) に対応し、上記3つのモデルで使用できます。

XCP 2042はクロスバーボックスを経由したSPARC M10-4Sの接続に対応した、最初のファームウェアパッケージです。

### 留意点および制限事項

ここでは、本リリース時点でわかっている留意点および制限事項について説明します。

### OpenBoot PROMに関する留意点

 ドメインコンソールでOpenBoot PROMのバナーを表示したあと、OpenBoot PROMの起動が完了する前にsendbreak(8)コマンドを実行すると、以下のエラー メッセージが出力され、以降、bootコマンドが実行できなくなります。 FATAL: OpenBoot initialization sequence prematurely terminated.

この場合は、okプロンプトでOpenBoot PROM環境変数auto-boot?をfalseに設定したあと、reset-allコマンドを実行してください。OpenBoot PROMが再起動されたら、auto-boot?をtrueに設定し、bootコマンドを実行してください。

- XSCFファームウェアのsetpparparam(8)コマンドを使用して、nvramrcなどの OpenBoot PROM環境変数を設定する場合、設定できる最大文字数は254文字です。 nvramrcなどのOpenBoot PROM環境変数に255文字以上の文字列を設定したい場 合は、OpenBoot PROMまたはOracle Solarisの環境で設定してください。ただし、 最大文字数は1024文字です。
- Oracle VM Server for SPARCのディスク、ネットワークが割り当てられていない 論理ドメインは、OpenBoot PROMのデバイスエイリアス disk、netが作成されま せん。デバイスエイリアスdisk、netを指定してディスクブートまたはネットワー クブートを実行する場合は、OpenBoot PROMのnvaliasコマンドを使用して、デ バイスエイリアスdisk、netを設定してください。

### CPUメモリユニットやマザーボードユニットの保 守に関する留意点

CPUメモリユニット(下段)(CMUL)またはマザーボードユニット(MBU)を交換 した場合、CPUコアアクティベーション設定情報およびCPUコアアクティベーショ ンキーが消去されてしまう可能性があります。CPUコアアクティベーション設定情 報およびCPUコアアクティベーションキーを元に戻すには、dumpconfig(8)コマンド で退避しておいたCPUコアアクティベーション設定情報およびCPUコアアクティ ベーションキーをrestoreconfig(8)コマンドで復元する必要があります。

### CPUコアアクティベーションに関する留意点

- XCP 2032以前では、restoredefaults(8)コマンドを実行してXSCFの設定情報を初期 化すると、CPUコアアクティベーションキーの情報も初期化されます。 restoredefaults(8)コマンドを実行する場合は、あらかじめCPUコアアクティベー ションキーを保存してから復元するか、CPUコアアクティベーションキーを再登 録してください。
- XCP 2041以降、restoredefaults -c xscfコマンドを実行すると、CPUコアアクティ ベーションキーの情報は、XSCFユニット側だけでなくXSCFのバックアップ情報 側も消去されます。また、restoredefaults -c factoryコマンドを実行しても、CPU コアアクティベーションキーの情報は消去されません。
   CPUコアアクティベーションキーの情報も含めて出荷時の状態に初期化する場合、
   -c factory -r activationオプションを使用してください。

**restoredefaults**の変更情報は、「『SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュ アル』の変更内容」を参照してください。

 dumpconfig(8)コマンドで退避したXSCF設定情報には、CPUコアアクティベーション情報およびCPUコアアクティベーションキーが含まれます。 dumpconfig(8)コマンドで退避しておいたCPUコアアクティベーション情報およびCPUコアアクティベーション大ーをrestoreconfig(8)コマンドで復元できます。

そのため、XSCFネットワークや物理パーティション(PPAR)の構築など、XSCF の設定とともに、CPUコアアクティベーションの設定およびCPUコアアクティベー ションキーのインストールを行った場合は、dumpconfig(8)コマンドを使用して、 CPUコアアクティベーション情報およびCPUコアアクティベーションキーを退避 しておくことをお勧めします。CPUコアアクティベーションキーのみを退避する 場合はdumpcodactivation(8)、復元する場合はrestorecodactivation(8)コマンドで 実行できます。ただし、CPUコアアクティベーション情報の退避/復元はできま せん。showcod(8)およびsetcod(8)コマンドを使用して、CPUコアアクティベーショ ンを設定しなおしてください。

### XSCF Webに関する留意点および制限事項

#### 留意点

- (1) ブラウザ共通
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に"Session is invalid"が表示されることがあります。
- XSCF Webを使用してXCPをインポートする場合、XSCFシェルのタイムアウト時間が短いと、XCPのインポートに失敗します。XSCFシェルのタイムアウト時間を30分以上に設定してください。
   [menu]タブを選択し、[XSCF]-[Settings]-[Autologout]メニューを選択し、
   [Time-out value]に、30分以上の値を設定してください。
- (2) Internet Explorer 現時点で確認されている留意点はありません。

- (3) Firefox
- Firefox環境下でXSCF Webを使用する場合、XSCFログイン時に、ブラウザからロ グインID/パスワードの保存を要求されることがあります。このときログインID /パスワードを保存しないでください。ログインID/パスワードを保存すると、 保存されたデータがLDAP、SMTP、およびREMCSのWebページに表示されてし まうことがあります。 以下のどちらかを設定して、ブラウザのログインID/パスワード保存機能を無効

以下のどちらかを設定して、フラウサのロクインID/バスワード保存機能を無効 にしてください。

- ブラウザ全体のログインID/パスワード保存機能を無効にする [ツール]-[オプション]-[セキュリティ]タブにある[パスワード]-「サイトのパス ワードを保存する」のチェックを外します。
- ログインID/パスワード保存の例外サイトに指定する
  [ツール]-[オプション]-[セキュリティ]タブにある[パスワード]-[サイトのパス
  ワードを保存する]をチェックしたあと、XSCFログイン時に出力されるID/パ
  スワード保存のためのダイアログにある、[このサイトでは記憶しない]ボタン
  をクリックします。これにより、ID/パスワード保存の[例外サイト]リストに
  XSCFのアドレスが登録され、以降のXSCFへのログイン時に、ID/パスワード
  保存のためのダイアログが出力されなくなります。

#### 制限事項

- (1) ブラウザ共通 現時点で確認されている制限はありません。
- (2) Internet Explorer Windows 7環境下でInternet Explorer 8を使用した場合、ビルトインAdministrat orアカウントを使用できません。
- (3) Firefox

現時点で確認されている制限はありません。

### ファームウェアアップデートに関する留意点

 [SPARC M10-4S] flashupdate(8)コマンドまたはXSCF Webによるファームウェアアップデートは、 システムを構成しているSPARC M10-4Sまたはクロスバーボックスの台数に応じ て、処理時間がかかります。

### その他の留意点および制限事項

#### 留意点

 [SPARC M10-1/M10-4/M10-4S] TelnetおよびSSHでXSCFへ同時に接続できる最大ユーザー数は、以下のとおりで す。

- M10-1:20ユーザー
- M10-4: 40ユーザー
- M10-4S (クロスバーボックスなし):40ユーザー
- M10-4S (クロスバーボックスあり):70ユーザー

最大ユーザー数を超えた場合、アクセスは拒否されないためXSCFでプロセスダウ ンやハングが発生し、XSCFがリセットされることがあります。

 XSCFに以下のエラーログが登録された場合は、物理パーティション(PPAR)の 電源を投入しないで、PSUバックプレーンを交換してください。 FRU:/PSUBP

Msg: SCF Diagnosis error on System backup memory

- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- setdualpowerfeed(8)コマンドの設定は即時反映されるため、XSCFをリセットする 必要ありません。
- ioxadm poweroff(8)コマンドで-fオプションを一緒に指定できるのは。電源ユニットだけです。
- setupfru(8)コマンドのメモリミラー設定は、対象のシステムボード(PSB)が属す る物理パーティション(PPAR)の、電源が切断されている状態で行ってください。
- マニュアルページを表示する場合は、ターミナルソフトの設定をTERM=vt100としてください。
- 物理パーティション(PPAR)を構築する場合、システムに存在しないBB-IDを PPAR-IDに設定しないでください。 例えば、システムに存在するBB-IDが00と01の場合、設定できるPPAR-IDは00ま たは01です。PPAR-IDに02を設定すると、PPAR-ID 02に設定されたPPARは起動 できなくなります。
- showhardconf(8)コマンドを実行して表示される情報のうち、ゲストドメインの PCI Express (PCIe) カード情報は、該当するゲストドメインのOracle Solarisが起 動したあとに反映されます。
- XCP 2032以降、setpparmode(8)コマンドで設定する省電力動作のデフォルト値は、「有効」から「無効」に変更されます。
- testsb(8)またはdiagxbu(8)コマンドを実行すると、エラーログの被疑箇所に 「PPAR#30」と、存在しないPPAR-IDが表示されることがあります。これは、診 断時にシステムボード(PSB)の異常が検出されたことを示します。出力された PPAR-IDは何も意味も持ちません。
- 制御ドメインコンソールに接続する場合は、XSCF-LANポート経由で接続することを推奨します。
   シリアルポート経由で制御ドメインコンソールに接続して大量のデータを出力させると、正しく表示されないことがあります。
- [SPARC M10-4S] showhardconf(8)コマンド、showboards(8)コマンド、showpparstatus(8)コマンド など、システムの構成や状態を表示するコマンドは、システムを構成している

SPARC M10-4Sやクロスバーボックスの台数に応じて、処理時間がかかります。

- [SPARC M10-4S] 複数の筐体で構成されているシステムの場合、BB#01またはXBBOX#81の筐体が、 はじめにマスタXSCFになることもあります。
- [SPARC M10-4S] システム構成によっては、リブートに時間がかかることがあります。
- [SPARC M10-4S] XCP 2032をインストールしたSPARC M10-4SにSPARC M10-4Sを増設する場合は、 事前に最新のファームウェアにアップデートしてください。

#### 制限事項

 以下のコマンドでSSH, HTTP, HTTPS, FTPを使用したデータ入出力は行えません。 getflashimage(8)、dumpconfig(8)、restoreconfig(8)、setremotepwrmgmt(8)、 getremotepwrmgmt(8)、dumpcodactivation(8)、restorecodactivaion(8)、 snapshot(8)

データの入出力には、USBデバイスを使用してください。

ただし、次の場合は、ブラウザからアップロードおよびダウンロードできます。

- XSCF Webで[menu]タブを選択し、[XSCF]-[Firmware Update]メニューを選択 してXCPをインポートする
- XSCF Webで[menu]タブを選択し、[XSCF]-[snapshot]メニューを選択してログ を保存する
- setpcl(8)コマンドの-sオプションで設定されるno-mem、no-ioは。現時点ではサポートされていません。
- XSCFとハイパーバイザ間のAlive監視機能はサポートされていません。XSCFとハイパーバイザ間のAlive監視機能は、setpparmode(8)コマンドを使用しても、有効/無効を設定できません。
- [SPARC M10-4S]

2台以上で構成されたSPARC M10-4Sで、制御ドメインコンソール接続中にXSCF の切り替えが発生したあと、切り替わったマスタXSCFに制御ドメインコンソール を接続しなおそうとすると、すべてのSPARC M10-4Sの筐体が再起動するまで制 御ドメインコンソールに接続できないことがあります。

XSCFの故障が原因ですべてのXSCFが再起動できていない場合は、再度、制御ド メインコンソールに接続してください。制御ドメインコンソールに接続できない 場合は、故障しているXSCFユニットまたはCPUメモリユニット(下段)を交換し てください。

[SPARC M10-4S]

2台以上で構成されたSPARC M10-4Sで、あるXSCFの故障のためにすべてのXSCF が再起動できていない場合、poweroff(8)コマンドやreset(8)コマンドを実行しても、 正常に動作しないことがあります。

物理パーティション(PPAR)の電源を切断する場合は、PPARの制御ドメインに ログインしてOracle Solarisのshutdown(1M)コマンドを実行して、その後、XSCF ファームウェアのpoweroff -fコマンドを使用してPPARの電源を切断してくださ い。この状態でreset(8)コマンドは使用できません。

■ setpowerupdelay(8)コマンドにある空調待ち時間を設定するための-c waitは、現

時点ではサポートされていません。

- システムボード(PSB)の動的再構成機能のサポート情報については、担当営業 にご確認ください。
   動的再構成に関連するコマンドオプションは以下のとおりです。
  - addboard(8)コマンドの-c configure
  - deleteboard(8)コマンドの-c disconnect (PPARの電源が投入されている場合)
  - deleteboard(8)コマンドの-c unassign (PPARの電源が投入されている場合)
- diagxbu(8)コマンドの-pオプションは、現時点ではサポートされていません。
- setpciboxdio(8)およびshowpciboxdio(8)コマンドは、現時点ではサポートされて いません。
- SPARC M10-4Sの活性/通電増設は、現時点ではサポートされていません。非活性/通電増設で作業してください。詳細は「第6章 SPARC M10-4Sハードウェアに関する情報」の「SPARC M10-4Sの活性/通電増設に関する制限事項」を参照してください。
- replacefru(8)コマンドを使用したクロスバーボックスの交換は、現時点ではサポートされていません。クロスバーボックスの交換方法は「第6章 SPARC M10-4Sハードウェアに関する情報」の「クロスバーボックスの交換に関する制限事項」を参照してください。
- addfru(8)コマンドを使用したクロスバーボックスの増設は、現時点ではサポート されていません。クロスバーボックスの増設方法は「第6章 SPARC M10-4Sハード ウェアに関する情報」の「拡張接続用ラック2の増設に関する制限事項」を参照し てください。
- [SPARC M10-4S] 複数の物理パーティション(PPAR)で構成されたシステムに対して、poweron (8)コマンドですべてのPPARの電源を投入するとき、PPARを指定した電源投入は、 -aを指定した一括電源投入よりも起動時間がかかります。
- [SPARC M10-4/M10-4S]

setpparmode(8)コマンドの-m functionで指定できるioreconfigureは、デフォルト であるfalseのままとし、I/Oバス再構成機能を無効にしてください。ioreconfigure にtrueを指定して、I/Oバス再構成機能を有効にすると、Oracle Solarisの再インス トールが必要になることがあります。

## XCP 2042での不具合と回避方法

**XCP 2042**で発生しうる**XCP**の不具合については、「**XCP 2042**で発生しうる不具合と 回避方法」を、**XCP 2042**で解決された**XCP**の不具合については、「**XCP 2042**で解決 された不具合」を参照してください。



## ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC M10 システムのソフトウェアに関する特記事項や不具合について 説明します。

- 留意点および制限事項
- XCPに関する不具合と回避方法
- Oracle Solarisに関する不具合と回避方法

### 留意点および制限事項

### Oracle VM Server for SPARCに関する留意点

- Oracle VM Server for SPARCで論理ドメインを再構成したあと、ldm add-spconfigコマンドを実行する前に、XSCFファームウェアのreset(8)コマンドでゲストドメインを操作すると、指定したゲストドメイン以外のゲストドメインがリセットされることがあります。または、指定したゲストドメインがリセットされません。ldm add-spconfigコマンドで論理ドメインの構成を保存してください。保存する前にゲストドメインをリセットする場合は、XSCFからではなく、制御ドメインからldm stopコマンドを実行してください。
- 次回起動時の論理ドメインの構成を指定する場合は、ldm add-spconfig -rではなく、ldm set-configコマンドを使用してください。
   ldm add-spconfig -rコマンドを使用して、次回起動時の論理ドメインの構成を指定した場合、XSCFファームウェアのreset(8)コマンドでゲストドメインを操作すると、指定したゲストドメイン以外のゲストドメインがリセットされることがあります。
- Oracle VM Server for SPARCで、ldm migrate-domain コマンドを実行した場合、 XSCFで以下の問題が発生します。
  - showdomainstatus(8)コマンドを実行すると、移行先のゲストドメインのステータスが"Unknown"で表示されます。
  - poweroff(8)コマンドを使用して物理パーティション (PPAR) の電源を切断し

た場合、いずれかのゲストドメインが正しくシャットダウンされないことがあります。

- reset(8)コマンドを使用してゲストドメインをリセットした場合、指定したゲストドメイン以外のゲストドメインがリセットされることがあります。ゲストドメインをリセットする場合は、XSCFからではなくゲストドメインから実行してください。
- SNMP設定している場合、Trap通知されたゲストドメイン名が誤っていること があります。
- Idm migrate-domainコマンドによるマイグレーションでは、移行元の論理ドメインがOpenBoot PROMの状態の場合はサポートされません。
   移行元の論理ドメインを以下のどちらかの状態にしたうえで、Idm migratedomainコマンドによるマイグレーションを実施してください。(CR 15858731)
  - 停止状態 (bound状態)
  - Oracle Solarisを起動した状態
- 制御ドメインのldmdサービス(svc:/ldoms/ldmd:default)は、必ず起動してください。

### Opensslを使用する場合の留意点

SPARC M10 システムでopenssl(5)を使用する場合は、engineにpkcs11を指定してください。engineにpkcs11を指定しない場合は、SPARC64 Xプロセッサの暗号演算ユニットによるアシスト機能が動作しません。

opensslコマンドを使用する場合は、引数に-engine pkcs11を指定してください。 opensslライブラリ(libssl、libcrypto)を使用してプログラミングを行う場合は、 engine(3openssl)を使用してengine idに"pkcs11"を設定してください。

### リモート保守サービスに関する留意点

これは富士通のお客さま向けの情報です。

ここでは、リモート保守サービスを使用する場合の留意点について説明します。 REMCSの設定方法および使用方法については、『Enhanced Support Facilityユーザー ズガイド REMCS編』を参照してください。

#### リモート保守サービスの設定の前に

SPARC M10 システムでリモート保守サービスを使用するには、XSCF WebでREMCS エージェント機能に関する設定を行う必要があります。また、REMCSエージェント では、XSCFのタイムゾーン情報を使用します。事前に、XSCFシェルで以下の設定を 済ませておいてください。

- HTTPS設定を有効にするなど、XSCF Webを使用するために必要な設定
- XSCFのタイムゾーン設定

上記の設定が完了したら、XSCF WebでREMCSエージェント機能に関する設定を行っ

てください。

なお、XSCF Webの設定、タイムゾーン設定の詳細は、『SPARC M10 システムシステム運用・管理ガイド』を参照してください。

#### REMCSエージェント機能のタイムゾーンについて

REMCSエージェントでは、現在システムで設定されているタイムゾーンを使用しま す。このため、XSCFでシステムのタイムゾーンを変更した場合、REMCSセンター の情報を更新するために、定期接続スケジュールを設定しなおしてください。

## XCPに関する不具合と回避方法

ここでは、XCPに関する不具合と回避方法をバージョンごとに記載します。

### XCP 2042で発生しうる不具合と回避方法

XCP 2042で発生しうる不具合とこれらの不具合に対する回避方法を、以下の表に示します。

表 3-1 XCP 2042で発生しうる不具合と回避方法

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2- 121113-009	0	0	0	XSCFが動作中、プロセスダウ ン、パニックまたはwatchdogタ イムアウトが発生し、XSCFが リセットしても再起動されない ことがあります。	XSCFが起動されていることを 確認してください。 起動されていない場合は、物理 パーティション(PPAR)の電 源を切断したあと、システムの 入力電源を切断してから再投入 (AC OFF/ON)してください。 システムの入力電源を明断したあと 30秒以上待ってから投入してく ださい。 システムの入力電源を切断後再 投入しても、XSCFが起動され ない場合は、CPUメモリユニッ ト(CMU)を交換してください。
RTIF2- 121113-025	0	0	0	CPUの故障が発生したとき、 Oracle Solaris上で、縮退やオフ ラインを表すエラーメッセージ がSyslogに出力されないことが あります。	showlogs(8)コマンドを使用し、 XSCF上で故障状態を確認して ください。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2- 121129-003	0	0	0	setsnmpvacm(8)コマンドのオペ ランドにcreateviewを指定して 実行する場合、MIBのOIDマス クを使用したアクセスの制限が できません。	有効な回避方法はありません。 setsnmpvacm(8)コマンドのオペ ランドにcreateviewを指定して 実行する場合、MIBのOIDマス クを使用しないでください。
RTIF2- 121219-008		0	0	2 CPUが搭載されたSPARC M10-4またはSPARC M10-4Sで I/Oバス再構成を有効に設定し ているとき、2 CPUを追加する ためにCPUメモリユニット (CMU)を増設すると、それ まで使用していたI/Oデバイス のデバイスパスが変化します。	有効な回避手段はありません。
RTIF2- 121219-011			0	poweroff(8)コマンドによる物理 パーティション (PPAR) の電 源の切断処理中に、そのPPAR に属するシステムボードに対し てdeleteboard -c unassignを実 行すると、そのPPARの電源が 切断できなくなることがあります。	poweroff(8)コマンドを実行した あと、showpcl(8)コマンドで当 該PPARのstatus欄がPowered Offとなっていることを確認し てから、deleteboard(8)コマン ドを実行してください。
RTIF2-130109- 003	0	0	0	PCIボックスが接続された SPARC M10システム筐体のLSB 番号を、setpcl(8)コマンドを使 用して変更し、論理ドメイン構 成でOracle Solarisを起動すると、 showhardconf(8)コマンドを実 行しても、PCIボックスの構成 情報が表示されません。	setdomainconfig(8)コマンドを 使用して、論理ドメイン構成 を"factory default"に設定し、物 理パーティション (PPAR)の 電源を投入してください。 その後、論理ドメインを設定し なおしてください。
RTIF2- 130219-002			0	スレーブXSCFのSPARC M10-4S を保守する場合、スタンバイ状 態のXSCFとスレーブXSCF間の XSCF接続ケーブルを誤接続す ると、異常を検知せずに、正常 に終了したと見なされてしまい ます。	switchscf(8)コマンドを使用して、 マスタXSCFとスタンバイ状態 のXSCFを切り替えたあと、対 象のスレーブXSCFに対して testsb(8)コマンドを実行してく ださい。XSCF接続ケーブルの 誤接続を検知してエラーログが 発行されます。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2- 130219-003			0	initbb(8)コマンドでSPARC M10-4S減設時にXSCF BB制御 ケーブルを取り外したり、 replacefru(8)コマンドでSPARC M10-4SまたはXSCFユニットを 交換したりすると、以下のエ ラーログが登録されます。 Msg: Board control error (MBC link error) Msg: BB control cable detected unexpected Msg: XSCF hang-up is detected	有効な回避方法はありません。 エラーログを無視してください。
RTIF2- 130219-004			0	クロスバーボックスに搭載され たクロスバーユニットで故障が 発生した場合、エラーログ に"failed to read/write interrupt mask register"が多数登録される ことがあります。	有効な回避策はありません。 物理パーティション(PPAR) の電源を切断し、クロスバー ボックス内のクロスバーユニッ トを交換してください。
RTIF2- 130219-006	0	0	0	<ul> <li>物理パーティション (PPAR)</li> <li>の電源投入中に、flushupdate</li> <li>(8)コマンドやrebootxscf(8)コマンドを使用してXSCFを再起動すると、POSTが診断を完了した状態 (Initialization Complete)</li> <li>で停止することがあります。</li> </ul>	reset porコマンドを実行するか、 poweroff -fコマンドでPPARの 電源を切断したあと再投入して ください。
RTIF2- 130219-007			0	ビルディングブロック構成のシ ステムで、クロスバーボックス やSPARC M10-4Sの入力電源を 切断したあと再投入すると、エ ラーログに"Board control error (MBC link error)"が登録されて いることがあります。さらに、 存在しないクロスパーボックス やSPARC M10-4Sを故障ユニッ トとして表示することがあります。	このエラーログは入力電源を切 断したときに登録されます。こ のエラーログは無視してください。
RTIF2-130228- 001	0	0	0	Oracle Solaris起動中にpoweroff -fコマンドで物理パーティショ ン (PPAR) の電源を強制的に 切断したあと、PPARの電源を 再投入すると、OSコンソールに" Unable to connect to Domain Service providers"が出力され、 Oracle Solarisが起動できないこ とがあります。	poweroff(8)コマンドでPPARの 電源を切断したあと、 poweron(8)コマンドでPPARの 電源を再投入してください。そ れでも、Oracle Solarisが起動し ない場合は、PPARの電源を切 断したあとにXSCFをリセット してから、PPARの電源を投入 しなおしてください。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130305- 001	0	0	0	setpowercapping(8)コマンドを 実行し、消費電力制限機能を「有 効」、消費電力上限値を「100パー セント指定(デフォルト)」、消 費電力の上限値を超えた場合の 猶予時間を「none」に設定し、 入力電源を投入または物理パー ティション (PPAR)の電源を 切断すると、イベントログ に"The limit of power have been exceeded"が登 録されます。	有効な回避方法はありません。 このイベントログは無視してく ださい。
RTIF2-130305- 002	0	0	0	CPUまたはメモリの故障を検出 し、XSCFが制御ドメインへ故 障情報を通知している最中に XSCFの切り替えが発生すると、 その故障情報が制御ドメインへ 再通知されないことがあります。 そのため、showlogs errorコマ ンドで表示される故障情報が、 fmdumpコマンドで出力される Fault Reportに表示されません。	有効な回避方法はありません。 showlogs errorコマンドで表示 されたFRUに従って、保守して ください。
RTIF2-130305- 003	0	0	0	入力電源ケーブルを抜去したあ とすぐに接続しなおすと、入力 電源の構成異常を表す"PSUs detect 100V and 200V at AC inputs"のエラーログが登録され ることがあります。	有効な回避方法はありません。 このエラーログは無視してくだ さい。
RTIF2-130305- 004			0	replacefru(8)コマンドを使用し て、SPARC M10-4Sまたはクロ スバーボックスの、XSCFユニッ トを交換すると、以下のメッ セージが出力されて、交換に失 敗することがあります。 [Warning:010] An internal error has occurred.	replacefru(8)コマンドをいった ん終了してから、実行しなおし てください。 それでも失敗する場合は、シス テムを停止してから交換してく ださい。
RTIF2-130305- 005			0	複数のSPARC M10-4Sで構成さ れたシステムで、物理パーティ ション (PPAR)の電源投入後 のPOSTによる診断の処理中に、 あるSPARC M10-4SでXSCFパ ニックが発生すると、PPARの 電源投入処理が継続されずに電 源が切断されることがあります。	有効な回避方法はありません。 各SPARC M10-4SのXSCFが再起 動されているかどうかを確認し てください。再起動されている 場合は、PPARの電源を投入し なおしてください。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130305- 007	0	0	0	testsb(8)コマンドまたは diagxbu(8)コマンドを実行した とき、システムボード (PSB) の構成違反が検出されると、登 録されたエラーログのFRUが" PPAR#30"で表示されます。	有効な回避方法はありません。 該当するSPARC M10システム 筐体のPSBを保守してください。
RTIF2-130305- 009	0	0	0	setsnmp addtraphostコマンド、 またはsetsnmp addv3traphost コマンドを使用して、トラップ ホストのIPアドレスを129エン トリー以上登録したあと showsnmp(8)コマンドを実行す ると、128エントリーまでしか 表示されません。	有効な回避方法はありません。 setsnmp(8)コマンドを使用して、 トラップホストのIPアドレスを 129エントリー以上登録した場 合、異常終了しなければ、IPア ドレスは正しく登録されています。
RTIF2-130305- 016			0	flashupdate -c syncコマンドで SPARC M10-4Sまたはクロス バーボックスのXCPファーム ウェアの版数合わせを行うと、 タイムアウトすることがあります。	-fオプションを指定して flashupdate(8)コマンドを実行 し、すべてのSPARC M10-4Sま たはクロスバーボックスに対し て、XCPファームウェアをアッ プデートしなおしてください。
RTIF2-130305- 018			0	replacefru(8)コマンドで"BB"選 択時の「Diagnostic tests」、ま たはtestsb(8)コマンド実行時に、 internal errorが発生することが あります。このとき、エラーロ グを確認すると、internal error の発生時刻に「PPAR#30」 で"no PSB available in PPAR"が登録されています。	該当するSPARC M10-4Sで故障 が発生し、システムボード (PSB) が使用できない状態になってい ます。エラーログを確認のうえ、 SPARC M10-4Sを交換してください。
RTIF2-130305- 019	0	0	0	testsb(8)コマンドで異常が発生 しても診断を継続してしまい、 2時間待たされたあとタイムア ウトします。	testsb(8) コマンド実行中に別 セッションでshowboards(8) コ マンドを実行して、診断対象の PSBの状態を確認してください。 「Test」が"Testing"以外で、か つ「Pwr」が"n"になっている場 合は、正しく動作していないた め、testsb(8) コマンドを [Ctrl]+[C]で中断ください。
RTIF2-130305- 020			0	XSCFのパニックやハングが発 生したときに、XSCF hang-up is detectedの エラーログが過剰に通知される ことがあります。	有効な回避手段はありません。 同じ時期に通知された同じ内容 のログは、同一の原因として無 視してください。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130305- 022			0	XSCF hang-up is detectedのエ ラーログが検出され、 showboards(8)コマンドで" unknown"のシステムボード (PSB) があるとき、 poweron(8)コマンドが以下の メッセージで失敗することがあ ります。XSCF Web、APCSや電 源連動による電源投入指示でも 同様です。 Not powering on : An internal error has occurred. Please contact your system administrator.	有効な回避手段はありません。 showhoards(8)コマンドで" unknown"となっている、PSB のXSCFを交換してください。
RTIF2-130305- 023			0	クロスバーユニットのDC-DCコ ンバーターに故障が発生した場 合は、本来"LSI detected errors with power subsystem failure."のエ ラーログが登録されるが、誤っ て"XB-XB interface link-up error."が登録され ます。	有効な回避方法はありません。 "XB-XB interface link-up error" のエラーログが登録された場合、 電源の故障が発生していないか 確認してください。 電源の故障が発生している場合 は、"XB-XB interface link-up error"のエラーログは無視して ください。
RTIF2-130305- 024			0	クロスバーボックスを含むシス テムにおいて、物理パーティ ション (PPAR) の電源が投入 された状態でクロスバーボック スの入力電源を切断後再投入す ると、制御ドメインコンソール に以下のメッセージが出力され、 PPARの電源処理が完了しない ことがあります。 WARNING: Unable to connect to Domain Service providers	有効な回避方法はありません。 [復旧方法] PPARの電源処理が中断した場 合は、poweroff-fコマンドを使 用して、PPARの電源を強制的 に切断してください。 その後、rebootxscf-aコマンド を使用して、すべてのXSCFを リセットするか、すべての SPARC M10-4S筐体の入力電源 を切断したあと、再投入してく ださい。
RTIF2-130305- 025			0	多数の物理パーティション (PPAR)を設定している状態 でpoweroff(8)コマンドを実行す ると、1 PPARずつ電源が切断さ れるため処理時間がかかります。 システム構成によっては、1時 間程度かかることがあります。	有効な回避手段はありません。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130307- 001			0	diagxbu(8)コマンドで指定した SPARC M10-4Sのいずれかが未 実装の場合、未実装のSPARC M10-4Sを示すPSB番号がメッ セージ"PSB#xx-0 is not installed."として出力されるは ずが、誤って、実装されている SPARC M10-4SのPSB番号が出 力されることがあります。	<ul> <li>有効な回避方法はありません。</li> <li>showhardconf(8)コマンドを実行して、該当のPSB番号が割り当てられているSPARC M10-4Sの実装状態を確認してください。</li> <li>未実装のSPARC M10-4Sは</li> <li>showhardconf(8)コマンドでは表示されません。</li> <li>該当するSPARC M10-4Sが表示されている場合は、メッセージ"</li> <li>PSB#xx-0 is not installed."のPSB番号は、コマンド実行時に指定した未実装のSPARC M10-4Sの</li> <li>PSB番号と読み替えてください。</li> </ul>
RTIF2-130319- 002			0	SPARC M10-4Sで、物理パーティ ション (PPAR) の電源切断処 理が完了する前に、SPARC M10-4Sやクロスバーボックスの 入力電源を切断後再投入し、再 度PPARの電源を投入すると、 以降にswitchscf(8)コマンド、 ファームウェアアップデート、 または故障によるマスタXSCF の切り替えが発生した場合に、 稼働中のPPARの電源が切断さ れることがあります。	SPARC M10-4Sやクロスバー ボックスの入力電源を切断する 前にPPARの電源を切断する場 合は、対象となるPPARおよび SPARC M10-4Sの電源の切断が 完了していることを、 showboards(8)コマンドと showlogs powerコマンドを使用 して確認してください。そのあ と、SPARC M10-4Sやクロスバー ボックスの入力電源を切断して ください。
RTIF2-130319- 003	0	0	0	poweroff(8) コマンドで物理パー ティション (PPAR) の電源切 断処理中に、制御ドメインで shutdown -i5コマンドを実行し たり、okプロンプトで power-offコマンドを実行した りして、PPARの電源の切断を 競合させた場合、イベントログ に"SCF:PPAR issued power-off request (PPARID X)"が多数登録 されることがあります。	PPARの電源は正常に切断され ているため、登録されたイベン トログは無視してください。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130329- 004			0	ビルディングブロック構成のシ ステムで、物理パーティション (PPAR)の電源投入中に以下 の操作が行われると、制御ドメ インコンソールに接続できない ことがあります。 1. PPARを構成するSPARC M10-4SのいずれかのXSCFが リセットされる。 2. マスタXSCFとスタンバイ状 態のXSCFが切り替えが発生 する。 3. 1.でリセットされたSPARC M10-4SのXSCFが再度リセッ トされる。	有効な回避手段はありません。 switchscf(8)コマンドを使用し、 マスタXSCFをリセットしてく ださい。
RTIF2-130329- 005	0			SPARC M10-1で入力電源の投入 時に、XSCFのREADY LEDが点 滅したまま起動しないことがあ ります。	有効な回避手段はありません。 入力電源を切断後、再投入して ください。
RTIF2-130329- 006			0	マスタXSCFとスタンバイ状態 のXSCFが同時に再起動してい るときに、パニックやwatchdog タイムアウトなどにより、稼働 中の物理パーティション (PPAR) に属しているSPARC M10-4SのXSCFがリセットされ ると、制御ドメインコンソール に接続ができないことがありま す。	有効な回避方法はありません。 poweroff-fコマンドを使用して PPARの電源を切断後、再投入 してください。
RTIF2-130410- 001			0	diagxbu(8)、またはtestsb(8)コ マンドを実行してシステムボー ド (PSB)の電源切断処理中に、 以下のメッセージが出力され、 システムボードの診断に失敗す ることがあります。 [Warning:010] An internal error has occurred.	<ul> <li>有効な回避方法はありません。</li> <li>showhardconf(8)コマンドを実行して該当するPSBのPwr欄が"</li> <li>n"になっていることを確認してください。</li> <li>"y"の場合は、数分間隔で</li> <li>showhardconf(8)コマンドを実行して、"n"になることを確認してください。</li> </ul>
RTIF2-130410- 002			0	<ul> <li>物理パーティション(PPAR)</li> <li>の電源投入処理中にswitchxscf</li> <li>(8)コマンドを実行してXSCFを</li> <li>切り替えを実施すると、XSCF</li> <li>の切り替えに失敗することがあります。</li> </ul>	PPARの電源投入処理中に switchxscf(8)コマンドを使用し て、XSCFの切り替えを実施し ないでください。

<ul> <li>RTIF2-130410- 003</li> <li>以下のすべての条件を満たした システムで、物理パーティショ ン(PPAR)を電源を投入する と、他のPPARの電源も投入さ れることがあります。</li> <li>setremotepwrmgmt(8)コマ ンドで電源連動を有効にして いる。</li> <li>電源連動の管理項目に SubNodeIDを設定しない ノードを作成している。</li> <li>複数のPPARで構成されている。</li> <li>複数のPPARで構成されている。</li> <li>複数のPPARで構成されている。</li> </ul>	RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
	RTIF2-130410- 003			0	以下のすべての条件を満たした システムで、物理パーティショ ン (PPAR) を電源を投入する と、他のPPARの電源も投入さ れることがあります。 setremotepwrmgmt(8)コマ ンドで電源連動を有効にして いる。 電源連動の管理項目に SubNodeIDを設定しない ノードを作成している。 複数のPPARで構成されている。	<ul> <li>電源連動が不要の場合 setremotepwrmgmt -c disableで電源連動を無効に してから、 clearremotepwrmgmt(8)コマ ンドで電源連動設定を削除し てください。</li> <li>電源連動が必要な場合 複数のPPARで構成されてい るシステムでは、電源連動の 管理ファイルに、SubNodeId として、PPAR-IDを指定し て作成したあと、 setremotepwrmgmt -c config で電源連動の設定を登録して ください。</li> </ul>

### XCP 2042で解決された不具合

XCP 2042で解決された不具合を、以下の表に示します。

#### 表 3-2 XCP 2042で解決された不具合

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130410- 004	0	0	0	オペレーションパネルから電源 の投入/切断ができないことが あります。	XSCFシェルから、電源を投入 する場合はpoweron(8)コマンド、 切断する場合はpoweroff(8)コマ ンドを実行してください。
					[復旧方法] 事象が発生した場合は、 poweroff -fコマンドを使用して、 物理パーティション (PPAR) の電源を切断してください。
RTIF2-130410- 005		0	複数の物理パーティション (PPAR)で構成されているシ ステムで、1つ以上のPPARの電 源が投入されている場合、また	-pオプションを指定して poweron(8)コマンドを実行し、 PPARごとに電源を投入してく ださい。	
				は1つ以上のPPARが設厚してい る場合に、poweron -aコマンド を実行すると、電源の投入に失 敗します。	[復旧方法] 事象が発生した場合は、電源の 投入が途中で止まってしまった PPARに対して、poweroff-fコ マンドを実行し、強制的に電源 を切断してください。そのあと、 poweron -pコマンドを実行し、 PPARの電源を投入してください。
RTIF2-130410- 006			0	<ul> <li>以下のすべての条件を満たした システムでクロスバーボックス が故障した場合、クロスバー ボックスが縮退し、動作が継続 できないことがあります。</li> <li>クロスバーボックスが2台以 上で構成されている。</li> <li>複数のPPARで構成されている。</li> <li>各物理パーティション (PPAR)が複数のCPUメモ リユニット(CMUU/CMUL) で構成されている。</li> </ul>	有効な回避方法はありません。 [復旧方法] poweron -pコマンドを実行して、 クロスバーボックスの故障に よって電源が切断されたPPAR の電源を再度投入してください。

表 3-2 XCP 2042で解決された不具合(続き)

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130410- 007			0	電源を投入した直後の物理パー ティション (PPAR) の電源を、 poweroff -fコマンドを使用して 強制的に切断すると、以降の電 源の投入/切断ができなくなる ことがあります。	<ul> <li>PPARの電源を投入したあとは、</li> <li>okプロンプトが表示されるまで、</li> <li>poweroff -fコマンドを実行しないでください。</li> <li>[復旧方法]</li> <li>PPARの電源の強制切断に失敗した場合は、入力電源を切断後、</li> <li>再投入(AC OFF/ON)してください。</li> </ul>

### XCP 2042より前の版数で解決された不具合

XCP 2042より前の版数で解決された不具合を、以下の表に示します。

#### 表 3-3 XCP 2042より前の版数で解決された不具合

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121113- 001	0	0	0	setsmtp(8)コマンドでユーザー 名に無効な値を設定したあと、 テストメールを送信するために setemailreport(8)コマンドを実 行すると、返信アドレス (Reply address) にメールが正 しく送信されたように表示され ます。	有効な回避方法はありません。 テストメールが正しく送信され たように表示されますが、メー ルは送信されません。
RTIF2-121113- 002	0	0	0	setaudit deleteコマンドを実行 し、viewaudit(8)コマンドで監 査ログを表示すると、一部の監 査ログが削除されていないこと があります。	有効な回避方法はありません。
RTIF2-121113- 006	0	0	0	XSCF Webメニューを使わずに 別ウィンドウや別タブにXSCF Web画面を表示すると、正常に 表示されないことがあります。	XSCF Webの画面表示操作はメ ニューツリーを使用してください。
RTIF2-121113- 007	0	0	0	XSCFが起動中、プロセスダウ ン、パニックまたはwatchdogタ イムアウトが発生し、XSCFが リセットする場合があります。	XSCFが起動されていることを 確認してください。 起動されていない場合は、物理 パーティション(PPAR)の電 源を切断したあと、システムの 入力電源を切断してから再投入 (AC OFF/ON)してください。 システムの入力電源を明断したあと 30秒以上待ってから投入してく ださい。 システムの入力電源を切断後再 投入しても、XSCFが起動され ない場合は、CPUメモリユニッ ト(CMU)を交換してください。
RTIF2-121113- 011	0	0	0	showsnmp(8)コマンドを実行す ると、以下のメッセージが表示 され、snmpデーモンが終了し ていることがあります。 Agent Status: Disabled	再度、showsnmp(8)コマンドを 実行し、snmpデーモンが再起 動されているか確認してください。 "Agent Status: Disabled"のままであれば、 setsnmp enableコマンドを実行 し、snmpデーモンを再起動し てください。
RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
--	----------------	----------------	-----------------	---	--
RTIF2-121113- 014	0	0	0	XSCF起動中に、"/etc/redhat- release not found"のエラーメッ セージが表示されます。	このメッセージは無視してくだ さい。
RTIF2-121113- 018	0	0	0	replacefru(8)コマンドでFRUを 交換したとき、構成変更を表す メッセージ"configuration changed () "が複数回、イベ ントログに登録されることがあ ります。	2回目以降のメッセージは無視 してください。
RTIF2-121113- 019	0	0	0	電源スケジュールにより物理 パーティション(PPAR)の電 源を切断したとき、パワーログ に表示される要因(Cause) が"-"と表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。
RTIF2-121113- 021	0	0	0	XSCFボードにある時計の故障 で、時刻が正しく読めなかった 場合、時計の故障を表すエラー がエラーログに記録されないこ とがあります。	有効な回避方法はありません。 poweron(8)コマンドを実行し、 以下のメッセージが表示された 場合、XSCFボードの時計が故 障しています。XSCFボードを 交換してください。
					Poweron canceled due to invalid system date and time.
RTIF2-121113- 022	0	0	0	オペレーションパネルが故障ま たは接続されていない場合、 XSCFを起動できません。	オペレーションパネルを接続し てください。故障している場合 は交換してください。
RTIF2-121113- 023 RTIF2-121113- 028	0	0	0	ハイパーバイザ動作中にCPUの 故障が発生した場合、物理パー ティション(PPAR)のリセッ トが複数回行われ、PPARの再 起動に時間がかかることがあり ます。	有効な回避方法はありません。
RTIF2-121113- 027	0	0	0	ファームウェアアップデート後、 XSCFを再起動しない状態で、 XSCF WebによりXCPをアップ ロードすると、XCPのアップ ロードが失敗し、XSCF Webが セションタイムアウトします。	ファームウェアアップデート後、 続けてXSCF WebでXCPをアッ プロードする場合は、XSCFを 再起動してください。
RTIF2-121113- 029	0	0	0	エラーログに以下のエラーが登 録されても、showhardconf(8) コマンドまたはshowstatus(8)コ マンドを実行したとき、故障状 態を表す (*) マークがつきません。 System backup memory access error	有効な回避方法はありません。

#### 表 3-3 XCP 2042より前の版数で解決された不具合(続き)

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121113- 031	0	0	0	Oracle VM Server for SPARCで PCIカードを割り当てたI/Oドメ インを作成後、I/Oドメインの 電源を投入し、okプロンプトの 状態で停止させた場合、XSCF のshowhardconf(8)コマンドで PCIカードの構成情報が表示さ れないことがあります。	Oracle VM Server for SPARCで PCIカードを割り当てた論理ド メインのOracle Solarisを起動し てください。
RTIF2-121129- 001	0	0	0	XSCFの再起動により、"System backup memory access error"の エラーログが記録され、PSUBP に故障状態を表す(*)マークが つく場合があります。エラーが 発生すると、物理パーティショ ン(PPAR)を起動したり、ロ グ情報を採取したりできなくな ります。	XSCFを再起動することにより、 PSUBPに故障状態を表す(*) マークが残りますが、XSCFは 復旧します。(*)マークが残る ことによる不具合はありません。 (*)マークを消去したい場合は、 本体装置の電源をいったんオフ にしてから、再度オンにしてく ださい。
RTIF2-121129- 002	0	0	0	CPUメモリユニット(CMU) またはマザーボードユニット (MBU)を交換した場合、 XSCFのユーザーアカウント情報が消去されることがあります。 XSCFユーザーアカウント情報 を元に戻すには、dumpconfig (8)コマンドで退避 しておいた設定情報を、 restoreconfig(8)コマンドで復元 する必要があります。	交換実施後、dumpconfig(8)で 退避しておいた設定情報を restoreconfig(8)コマンドで復元 するか、または、XSCFのユー ザーアカウント情報を再設定し てください。
RTIF2-121129- 004	0	0	0	restoredefaults(8)コマンドは以 下の情報を初期化できません。 設定情報がそのまま残ってしま います。 SCFのタイムゾーン HTTPSのサーバ証明	有効な回避方法はありません。 settimezone(8)コマンド、 sethttps(8)コマンド、setssh(8) コマンドで再設定してください。
RTIF2-121130- 001	0	0	0	RCILによる電源連動設定を有効 から無効に設定後、さらに有効 に設定した場合、ETERNUS DX80/DX90/DX410/DX440/ DX8100/DX8700 S2の電源連動 が働かない場合があります。	RCILによる電源連動設定を有効 から無効に設定したあと、 XSCFを再起動してください。
RTIF2-121204- 001	0	0	0	ダイナミックリソース管理ソフ トウェア(ServerView Resource Orchestrator)で監視 対象サーバの登録に失敗するこ とがあります。	有効な回避方法はありません。 ダイナミックリソース管理ソフ トウェアで監視対象サーバを登 録しなおしてください。
RTIF2-121204- 002	0	0	0	PRIMECLUSTERでノードが停 止したときに、自動的にノード を切り替えることができません。	有効な回避方法はありません。 PRIMECLUSTERに対して、ノー ドを手動で切り替えてください。

表 3-3 XCP 2042より前の版数で解決された不具合 (続	き)
----------------------------------	----

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121204- 003	0	0	0	OpenBoot PROMのsetenvや nvramrc、Oracle Solarisの eeprom(1M)コマンドやldm set-varコマンドで設定または変 更したOpenBoot PROM環境変 数は、システムの電源を再投入 すると保持されないことがあり ます。	<b>OpenBoot PROM環境変数を更</b> 新したあとは、ldm add-config コマンドを実行して、ドメイン 構成情報をXSCFに保存してく ださい。
RTIF2-121204- 004	0	0	0	XSCFのsetpparmode(8) コマン ドを使用してゲストドメインの オートブート機能を有効にした あと、制御ドメインとゲストド メインを同時に起動すると、ゲ ストドメイン上で以下のエラー ログが登録され、ゲストドメイ ンのOracle Solarisが 起動できないことがあります。 Code: 2000000- 00fff0000ff0000ff- 03000002000000000000000 Status: Notice Occurred: Nov 16 16: 55:25.518 JST 2012 FRU: /UNSPECIFIED Msg: Boot process failed	XSCFのsetpparmode(8)コマン ドを使用してゲストドメインの オートブート機能を無効にした あと、制御ドメインのOracle Solarisを起動してから、Oracle VM Server for SPARCのldm startコマンドを使用してゲスト ドメインを起動してく ださい。 [復旧方法] Oracle VM Server for SPARCの ldm stopコマンドを使用してゲ ストドメインを停止したあと、 ldm startコマンドを使用してゲ ストドメインを起動してください。
RTIF2-121206- 001	0	0	0	ドメイン起動時に以下のエラー メッセージが出力されることが あります。 Msg: PCI Express link not active	showhardconf(8)コマンドでPCI Express (PCIe) カードが認識 できている場合は、このメッ セージは無視してください。
RTIF2-121219- 002			0	複数のSPARC M10-4Sで構成さ れたシステムの電源ケーブルを 接続するとき、すべての電源 ケーブルを4分以内で接続しな いと、一部の筐体が認識されな いことがあります。	複数のSPARC M10-4Sで構成さ れたシステムの場合は、すべて の電源ケーブルを接続し終える のに4分を超えないようにして ください。 認識されないSPARC M10-4Sの 筐体がある場合は、再度、すべ ての筐体の電源ケーブルを抜き 挿ししてください。
RTIF2-121219- 004	0	0	0	電源連動グループの電源投入/ 切断中は、 showremotepwrmgmt(8)コマン ドが以下のメッセージで異常終 了することがあります。 Controller response timeout.	再度、showremotepwrmgmt(8) コマンドを実行してください。

表 3-3	XCP 2042より前の版数で解決された不具合(	(続き)	)
-------	--------------------------	------	---

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121219- 005	0	0	0	<ul> <li>部品の高温異常(High temperature)または吸気低温</li> <li>異常(Low temperature at air inlet) が登録されたとき、FRUで表示</li> <li>される2番目の故障部品(第二</li> <li>被疑部品)の情報が正しくない</li> <li>ことがあります。</li> </ul>	表示される2番目の故障部品(第 二被疑部品)の情報は無視して ください。
RTIF2-121219- 006	0	0	0	replacefru(8)コマンドを使用し た電源ユニット(PSU)の交換 が、Warning:005で失敗するこ とがあります。	再度replacefru(8)コマンドを実 行して、PSUを交換してください。
RTIF2-121219- 009	0	0	0	SPARC M10-1で"TWI access error"または"Power-off failure" のエラーログが登録されたとき、 FRUで表示される故障部品が ファンとなることがあります。	"TWI access error"または" Power-off failure"で、故障部品 がファンのときは、PSUバック プレーンを交換してください。
RTIF2-121219- 010			0	switchscf(8)コマンドを実行した とき、"XSCF hang-up is detected"のエラーログが登録さ れることがあります。	このエラーログは無視してくだ さい。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121219- 012			0	replacefru(8)コマンドを使用し て、SPARC M10-4Sの筐体を交 換したとき、"internal error"が 表示されて筐体の交換に失敗す ることがあります。	<ul> <li>replacefru(8) コマンドにより SPARC M10-4Sの筐体を交換す る場合は、以下の手順で作業を 実施してください。</li> <li>1. replacefru(8) コマンド実行後 に表示される"Do you want to continue?[r:replace1c:cancel]" に対して、交換のため"r"を入 力します。</li> <li>2. SPARC M10-4Sの筐体を交換 し、筐体の入力電源を投入後、約15分間待ちます。</li> <li>3. showlogs eventコマンドを実 行し、イベントログを表示します。</li> <li>4. 以下のどちらかの方法で交換 作業を続けます。</li> <li>イベントログに"XSCF update is started"と表示さ れた場合は、"XCP update has been completed"のログ が登録されるまで待ちます。</li> <li>イベントログに"SSCF update has been completed"が表示されたら、" Please select[f:finish]"に"f" を入力し、画面に従って交換作業を続けます。</li> <li>イベントログに"XSCF update is started"と表示さ れない場合は、"Please select[f:finish]"に"f"を入力 し、画面に従って交換作業 を続けます。</li> </ul>
RTIF2-121219- 013			0	XSCFが起動できない故障が発 生した場合、エラーとなった SPARC M10-4Sの筐体に対する エラーログだけではなく、存在 しない筐体に対してケーブル接 続の異常に関するエラーログが 登録されることがあります。	存在しないSPARC M10-4Sの筐 体に対して登録された、ケーブ ル接続の異常に関するエラーロ グは無視してください。
RTIF2-121219- 014			0	BB#00の故障で停止交換(入力電 源を切断して交換)を実施すると、 XSCFの設定情報が消去されて しまいます。	BB#00の故障でSPARC M10-4S の筐体を交換する場合は、 replacefru(8)コマンドを実行し て交換してください。
RTIF2-121219- 015			0	initbb(8)コマンドでSPARC M10-4Sの筐体を減設した場合、 減設した筐体の情報が完全に消 去されずに残ってしまいます。	SPARC M10-4Sを減設する場合 は、停止減設(入力電源を切断 して減設)を実施してください。

#### 表 3-3 XCP 2042より前の版数で解決された不具合(続き)

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-121219- 016	0	0	0	物理パーティション (PPAR) の電源を投入中、電源を切断中、 またはリセット中に、prtfru(8) コマンドを実行すると、 internal errorとなることがあり ます。	PPARの電源投入や電源切断、 リセットが完了するのを待って から、prtfru(8)コマンドを再度 実行してください。
RTIF2-121219- 017			0	BB#00またはBB#01でメモリ故 障が発生してエラーログが登録 されたあとに、SPARC M10-4S の筐体の電源を切断すると、再 度同じエラーログが登録される ことがあります。	有効な回避方法はありません。
RTIF2-121219- 018			0	2台以上のSPARC M10-4Sが、複 数の物理パーティション (PPAR)で構成されているシ ステムにおいて、以下のいずれ かの事象によりマスタXSCFの 切り替えが行われたあと、 PPARの電源を投入すると、 "STICK does not start (CPU)"、 "STICK does not start (MBC)"、 または "STICK count up error" のエラーログが登録され、CPU メモリユニット (CMUU/ CMUL)が縮退される場合があ ります。 ファームウェアアップデート 実施 XSCFの故障検出 switchscf(8)コマンドの実行	有効な回避方法はありません。 マスタXSCFの切り替えが行わ れたあと、PPARの電源を投入 しないで、すべてのSPARC M10-4Sの入力電源を切断し、再 投入してください。 マスタXSCFの切り替えが行わ れたあと、PPARの電源を投入 して"STICK does not start (CP U)"、"STICK does not start (CP U)"、"STICK does not start (CP U)"、"STICK does not start (CP U)"、"STICK does not start (MBC)"または"STICK count up error"のエラーログが登録さ れ、部品に故障マーク (*) が表 示された場合は、保守作業員に お問い合わせください。
RTIF2-121219- 019	0	0	0	PCIボックスに搭載されたPCI カードを挿入または抜去したと き、対象のPCIカードの番号 (PCI#)とは異なる番号がログ に表示されてしまいます。また、 PCIボックスのPCIeスロットや PCIカードの故障で、" PCICARD failed"のエラーログ が登録されたとき、対象のPCI カードの番号 (PCI#)とは異な る番号がエラーログに表示され てしまいます。	ログに表示されるPCI番号 (PCI#)に、1を引いた番号で読み 替えてください。
RTIF2-130109- 002			0	複数のシステムボード (PSB) で物理パーティション (PPAR) が構成されたシステムで、イベ ントログに"Console path is switched"が登録された場合、 PPAR-IDに不当な値が表示され ることがあります。	有効な回避方法はありません。

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130109- 005	0	0	0	replacefru(8)コマンドを使用し て、電源ユニット(PSU)を交 換すると、エラーログ に"Indispensable parts are not installed (PSU)"が登録されるこ とがあります。	このエラーログは、PSUが抜去 されたことにより登録されたロ グです。無視してください。
RTIF2-130109- 006			0	スタンバイ状態のXSCFが故障 中または起動中に、電源連動機 能の設定情報を変更した場合、 スタンバイ状態のXSCFの起動 が完了しても、変更した設定情 報はスタンバイ状態のXSCFに 反映されていないことがあります。 この状態でXSCFの切り替えが 発生すると、切り替え後のマス タXSCFから、変更後の設定情 報で電源連動ができないことが あります。	<ul> <li>電源連動機能を無効にしたあと、 以下の手順で、電源連動機能を 設定しなおしてください。</li> <li>1. setremotepwrngmt -c disable コマンドを実行し、電源連動 機能を無効にします。</li> <li>2. 管理ファイルを退避したあと、 clearremotepwrngmt(8)コマ ンドを使用して、設定情報を 初期化します。</li> <li>スタンバイ状態のXSCFが起 動中の場合は、起動が完了し てからclearremotepwrngmt (8)コマンドを実行します。</li> <li>スタンバイ状態のXSCFが故 障中の場合は、replacefru(8) コマンドを使用して対象 FRUを交換してから、 clearremotepwrngmt(8)コマ ンドを実行します。</li> <li>3. スタンバイ状態のXSCFの起 動が完了したら、退避した管 理ファイルを元に設定情報を 復元するために、 setremotepwrngmt -c config コマンドを実行します。</li> <li>4. setremotepwrngmt -c enable コマンドにより電源連動機能 を有効にします。</li> </ul>
RTIF2-130109- 007	0	0	0	すべての物理パーティション (PPAR)が停止している状態 からPPARの電源を投入した場 合、エラーログが登録されず、 PPARの電源が投入できないこ とがあります。	有効な回避方法はありません。 すべてのSPARC M10システム の筐体で、入力電源を切断後、 再投入してから、PPARの電源 を投入しなおしてください。
RTIF2-130130- 001		0	0	CMUUが搭載されていないシス テム構成でAC ONすると、 CMUUに対するHardware access errorのエラーログが発生 します。SPARC M10-4Sの増設 や交換時も、同様の現象が発生 します。	CMUUが搭載されていないこと により登録されたエラーログの ため、無視してください。

<b>表 3-3 XCP 2042</b> より前の版数で解決された不具合 (新した) (新しん) (*	続き	)
--	----	---

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130212- 001			0	setpparmode(8)コマンドで設定 する省電力動作が「有効」の場合、 以下の問題が発生することがあ ります。 <ul> <li>論理ドメインのハングアップ (ハートビート機能)を検出 できないことがある</li> <li>システム起動中(物理パー ティション(PPAR)動作中) に、CPUコアのCoDリソー スを削減した場合、PPARの 電源が切断されることがある。</li> </ul>	setpparmode(8)コマンドで省電 力動作を「無効」に設定してく ださい。
RTIF2-130212- 002	0	0	0	Oracle Solarisからldm add-spconfigコマンドを実行し たあと、XSCFから showdomainstatus(8)コマンド でドメインの状態を確認すると、 制御ドメインを含めたすべての ドメインが"Host stopped"と表 示されます。	Oracle Solarisからldm add-spconfigコマンドを実行し たあと、XSCFから showdomainstatus(8)コマンド でドメインの状態を確認すると、 制御ドメインを含めたすべての ドメインが"Host stopped"と表 示されます。
RTIF2-130212- 003	0	0	0	testsb(8)またはdiagxbu(8)コマ ンドで診断中のシステムボード (PSB) に対して、別セッショ ンでtestsb(8)コマンドを実行す ると、診断対象のPSBが異常状 態となり、PSBが使用できなく なることがあります。	testsb(8)コマンドを実行する前 に、showboards(8)コマンドを 使用して、診断対象となるPSB のPWRが"n"であることと、 TestがTestingでないことを確認 してください。 PSBが使用できなくなってし まった場合は、システム全体の 電源を切断後、再投入してくだ さい。
RTIF2-130215- 001			0	ハードウェア初期診断で以下の エラーログによるシステムボー ド (PSB) 異常が検出されたあ と、PSBが縮退されずに物理パー ティション (PPAR) のリセッ トを繰り返すことがあります。	deleteboard(8)コマンドを使用 して、異常が検出されたPSBを PPAR構成から切り離してください。
				Code: 40002000- 003cff0000ff0000ff- 02000e0000000000000000 FRU: /BB#x Msg: SB deconfigured (SB-SB access error) Code: 40002000- 003cff0000ff0000ff- 02000e0100000000000000 FRU: /BB#x Msg: SB deconfigured (not running)	

衣 3-3 XCP 2042より削の放剱で解伏されに个具合 (続る
-----------------------------------

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130215- 002	0	0	0	setpcl(8)コマンドでpolicyをpsb に設定しても、異常発生時の縮 退範囲がシステムボード単位と ならずに、部品(FRU)単位と なることがあります。	deleteboard(8)コマンドを使用 して、異常が検出されたPSBを PPAR構成から切り離してください。
RTIF2-130219- 001			0	電源連動グループの管理ファイ ルで設定できる「IPAddress」 と「SlaveAddress」の値に、 XSCFの引き継ぎIPアドレスを指 定することできません。	「IPAddress」と「SlaveAddress」 の値には、マスタXSCFとスタ ンバイ状態のXSCFの、 XSCF-LAN#0またはXSCF- LAN#1のIPアドレスをそれぞれ 指定してください。
RTIF2-130219- 005		0	0	物理パーティション(PPAR) 内の部品で故障が発生すると、 SNMP MIBのPPARの状態が更 新されません。	有効な回避方法はありません。
RTIF2-130219- 008			0	複数の物理パーティション (PPAR) で構成されたシステ ムで、PPARの電源を投入して いるときに、あるSPARC M10-4Sの入力電源を投入すると、 入力電源の投入されたSPARC M10-4SがマスタXSCFで認識さ れないことがあります。	PPARの電源を投入する前に、 構成するすべてのクロスバー ボックスやSPARC M10-4Sの入 力電源を投入してから、PPAR の電源を投入してください。
RTIF2-130227- 001			0	snapshotを採取する場合、-aオ プションを指定すると、マスタ XSCFの負荷が上昇して、XSCF Kernel Panicが発生することが あります。	システム全体のsnapshotを採取 する場合は、-aオプションでは なく、-bオプションでSPARC M10-4SのBB-IDを指定して、1 台ずつ採取してください。この 作業をすべてのSPARC M10-4S に対して実行してください。
RTIF2-130305- 008			0	複数のSPARC M10-4Sとクロス バーボックスで構成されたシス テムで、すべての物理パーティ ション (PPAR) がそれぞれ1つ のシステムボード (PSB) で構 成されているとき、あるPPAR の電源を投入すると、クロス バーボックスのクロスバーユ ニットの電源が投入抑止されず、 クロスバーボックスの電源も投 入されてしまいます。	有効な回避方法はありません。

#### 表 3-3 XCP 2042より前の版数で解決された不具合(続き)

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130305- 010			0	4台以上のSPARC M10-4Sが複数 の物理パーティション (PPAR) で構成されているシステムで、 poweron -aコマンドを使用して、 すべてのPPARの電源を投入す ると、Hypervisor Abortまたは OS PANICが発生することがあ ります。	poweron-aコマンドを使用して、 すべてのPPARの電源を同時に 投入しないでください。-pオプ ションを使用して、PPAR単位 で電源を投入してください。
RTIF2-130305- 013	0	0	0	XSCFが起動中、プロセスダウ ン、パニックまたはwatchdogタ イムアウトが発生し、XSCFが リセットする場合があります。	XSCFが起動されていることを 確認してください。 起動されていない場合は、物理 パーティション(PPAR)の電 源を切断したあと、システムの 入力電源を切断してから再投入 (AC OFF/ON)してください。 システムの入力電源を明断したあと 30秒以上待ってから投入してく ださい。 システムの入力電源を切断後再 投入しても、XSCFが起動され ない場合は、CPUメモリユニッ ト(CMU)を交換してください。
RTIF2-130305- 021			0	XSCF起動直後、システムボー ド (PSB) が"Unmount"として 認識されてしまい、addboard (8)コマンドやpoweron(8)コマン ドに失敗することがあります。	XSCF起動直後は30秒ほど待機 するとともに、showboards(8) コマンドで対象のPSBが搭載さ れていることを確認してから、 addboard(8)やpoweron(8)コマ ンドを実行してください。
RTIF2-130319- 001		0	0	SPARC M10-4/M10-4Sの入力電 源を投入した直後に、まれに" DMA timeout error Hard detected"が検出されることがあ ります。"DMA timeout error Hard detected"が検出された状 態で論理ドメインを起動すると CPUメモリユニット(下側) (CMUL)が縮退します。	有効な回避方法はありません。 論理ドメインを起動する前に、 入力電源を切断後、再投入して ください。 論理ドメインを起動させたあと、 CMULの縮退された状態が解消 しない場合は、保守作業員にお 問い合わせください。
RTIF2-130329- 001			0	SPARC M10-4Sでのファーム ウェアアップデート中に、マス タ筐体のALARM LEDが突然点 灯して停止したままの状態とな り、ファームウェアアップデー トが完了しないことがあります。	有効な回避方法はありません。

衣 3-3 XCP 2042より削り放剱で胜伏されに个具合 (続き
-----------------------------------

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
RTIF2-130329- 002			0	クロスバーボックス2台以上の 構成で、かつ、クロスバーボッ クスを使用しない物理パーティ ション (PPAR)構成の場合、 オペレーションパネルから電源 が切断できません。	poweroff(8)コマンドを使用して 電源を切断してください。
RTIF2-130329- 003	0	0	0	<ul> <li>物理パーティション (PPAR) のステータスがPowerOn (Oracle Solaris OS起動後、 PowerOffが完了するまでの間) 状態で入力電源を切断すると、 次回入力電源を投入するときに、 PPAR内のいずれかのSPARC M10-4SでSRAM serious errorが 発生し、入力電源が投入できな くなります。</li> </ul>	入力電源を切断するときは事前 にPPARの電源を切断して、切 断が完了したことを確認してか ら実施してください。 また、不具合が発生してしまっ た場合は、以下の手段で復旧し てください。 1. dumpconfig(8)コマンドで設 定を保存します。 2. restoredefaults -c factoryコマ ンドでシステムを工場出荷状 態に戻します。 3. restoreconfig(8)コマンドで設 定を復元します。

# Oracle Solarisに関する不具合と回避 方法

ここでは、Oracle Solarisに関する不具合と回避方法をバージョンごとに記載します。

## すべてのバージョンのOracle Solarisに関する不具 合と回避方法

サポートされているすべてのバージョンのOracle Solarisで発生しうる不具合と回避 方法を、以下の表に示します。

表 3-4 すべてのバージョンのOracle Solarisで発生しうる不具合と回避方法

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
15813959 15813960 (7196117)	0	0	0	SPARC M10システムで、 hotplug(1M)によってPCIボック スを追加した場合、PCIボック ス上のデバイスが認識されません。	hotplug(1M)でPCIボックスの 追加する場合は、あらかじめ /etc/systemファイルに以下の1 行を追加後、Oracle Solarisを 再起動してから実施してください。 set pcicfg:pcicfg_ slot_busnums = 4
15814853			0	<ul> <li>メモリを8000 GB(約7.8 TB)以 上搭載しているドメインに、</li> <li>telnetやsshで接続しようとする と、接続先の制御ドメインコン ソールに以下のようなメッセージが表示され、接続できなくな ります。</li> <li>sshの場合</li> <li>error: /dev/ptmx: Not enough space</li> <li>error: session_pty_ req: session 0 alloc failed</li> <li>telnetの場合</li> <li>telnetd: open /dev/ ptmx: Not enough space</li> </ul>	これは、Solaris 11.1 SRU3.5.1 で修正されました。 [回避方法] 以下のコマンドを実行して、 ptmx_ptymaxを変更してください。 [例] # echo "ptms_ptymax/Z Ox400000"   mdb -kw ptms_ptymax: 0 = 0x400000
15822113 15956174	0	0	0	シェルスクリプトなどでldm add-vcpu、ldm remove-vcpuを 繰り返し実行すると、実行して いるプロセスがコアダンプで異 常終了することがあります。	再度、コマンドを実行してく ださい。 また、ldm remove-vcpuを実 行する場合は、プロセスの負 荷が低い状態で実行するよう にしてください。

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
CR ID 15825208	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明 SPARC M10 システムにおいて、 Oracle Solarisのscp(1)、sftp(1)、 sh(1)コマンドがエラーになっ たり、Oracle RACのインストー ルに失敗したりすることがあり ます。	<ul> <li>回避方法</li> <li>これは、Solaris 11.1 SRU 1.4で 修正されました。</li> <li>[回避方法] 以下の手順で、AES_CTR、 AES_CBC_MAC、AES_ CFB128アルゴリズムを暗号ユ ニットのアシスト機能で使用 しないように設定を変更して ください。</li> <li>クライアント機能で使用す る場合 (scp(1), sftp(1), ssh(1)など)</li> <li>対象ファイルに設定内容を1 行で追加してください。ス ペースが必要なのは「Cipher」 と「aes128-cbc」の間だけです。</li> <li>対象ファイル</li> <li>システム全体の設定:</li> <li>(+tc/ssh/ssh_config ユーザーごとの設定:</li> <li>\$HOME/.ssh/ssh_config</li> <li>ご定内容</li> <li>Ciphers aes128-cbc, aes192-cbc, aes192-cbc, aes256-cbc,3des-bc, arcfour128, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour256, arcfour28, arcfour28, arcfour28, arcfour28, arcfour26, arcfour, blowfish-cbc</li> <li>以下のコマンドでサービス を再起動してください。</li> </ul>
					<ul> <li>クライアント機能、サーバ 機能のいずれの場合も、上 記設定でも解決しない場合</li> <li>1. 上記の設定内容の代わりに</li> </ul>
					以下を追加してください。 UseOpenSSLEngine no

表 3-4	すべてのバージョンのOracle	Solarisで発生しう	る不具合と回避方法	(続き)
-------	------------------	--------------	-----------	------

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
15826052	0	0	0	PCIホットプラグ (PHP) 機能 を使用して、Quad Gigabit Ethernetカード (SE1X7GQ2F) を、PCIボックス内の PCI-Expressスロットに増設す ることはできません。	有効な回避方法はありません。 増設対象の論理ドメインを停 止してから、PCIカードを増設 してください。
15840018	0	0	0	ファームウェアをXCP2031以降 にアップデートすると、Oracle Solaris起動時に以下のメッセー ジが表示されます。 NOTICE: skipping unsupported token: fjorclnum	システムに影響はありません。 このメッセージは無視してく ださい。
15851224	0	0	0	I/Oドメイン起動時に以下のよ うなメッセージが出力され、パ ニックし続けることがあります。 recursive rw_enter, lp=XXXXXXX wwwh=XXXXXXXX thread=XXXXXXXX	I/Oドメインの /etc/systemに以 下を追加して、Oracle Solaris を再起動してください。 forceload: drv/vpci なお、I/Oドメインが起動でき ない状態となっている場合は、 I/Oドメインの仮想ディスク サービス (vds) の対象となる 仮想ディスク (vdisk) を割り 当てているゲストドメインを、 ldm stop-domain、ldm unbind-domainコマンドによ りinactive状態へ移行してくだ さい。これにより、I/Oドメイ ンが起動できますので、I/Oド メインを起動してから上記を 設定してください。

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
CR ID 15851441	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明 メモリが故障して縮退すると、 のracle Solaris起動時に以下の メッセージが出力され、パニッ クし続けることがあります。 tilelet_assign_fini_ cb(): tile 0xX in memgrp X was unused また、ldm add-spconfigで論理 ドメインの設定を保存したあと に、メモリのミラーモード設定 をした場合にも発生します。	<ul> <li>回避方法</li> <li>故障したメモリを交換してください。</li> <li>故障したメモリを搭載したままのracle Solarisを起動したい場合は、XSCFから以下の手順で起動してください。</li> <li>1. poweroff(8)コマンドを使用し、物理パーティション(PPAR)の電源を切断します。</li> <li>2. setdomainconfig(8)コマンドを実行し、PPARをfactory-defaultの状態にします。</li> <li>2. setdomainconfig(8)コマンドを実行し、PPARをfactory-defaultの状態にします。</li> <li>3. poweron(8)コマンドでPPARをを起動します。</li> <li>料御ドメインのみの構成(factory-default) でOracle Solarisが起動されます。 メモリのミラーモードを設定する場合、factory-default)でのすが起動されます。</li> <li>制御ドメインを構成し、Idm add-spconfigで設定を保存してください。</li> <li>また、ミラーモードを使用している環境に、ミラーモード設定していない状態で保存した設定を、Idm set-configや</li> </ul>
					マンドで指定しないでください。

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
15858713	0	0	0	メモリ故障が発生して、ゲスト ドメインに割り当てたメモリが すべて縮退した場合、 ldmd(1M)がコアダンプで異常 終了し、ldm(1M)コマンドがエ ラー終了します。	故障したメモリを交換してく ださい。 故障したメモリを搭載したま まOracle Solarisを起動したい 場合は、XSCFから以下の手順 で起動してください。
					<ol> <li>poweroff(8) コマンドを使用 し、物理パーティション (PPAR)の電源を切断します。</li> <li>setdomainconfig(8) コマンド を実行し、PPARを factory-defaultの状態にします。 setdomainconfig -p ppar_id -c default</li> </ol>
					3. poweron(8)コマンドでPPAR を起動します。
					制御ドメインのみの構成 (factory-default)でOracle Solarisが起動されます。
15887244	0	0	0	SPARC M10 システムでSunVTS 7.0 ps14およびps15のテストを 開始すると、エラーで終了する ことがあります。	SPARC M10 システムでは、 SunVTSはサポートされていま せん。

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
15823255			0	以下の両方を満たす環境におい て、psradm(1M)やpsrset(1M)コ マンドでCPUの割り当てを変更 したり、ldm(1M)コマンドで仮 想CPUの動的構成変更を行った	これは、Solaris 11.1 SRU5.5で 修正されました。 [回避方法] /etc/system に以下の行を追加
				<ul> <li>りすると、Oracle Solarisがパ ニックすることがあります。</li> <li>物理パーティション (PPAR) が2台以上のSPARC M10-4S の筐体で構成されている場合</li> <li>制御ドメインまたは論理ドメ イン上でlgrpinfoコマンドを 実行すると、以下のような lgroupが存在する場合</li> <li>"lgroup XX (intermediate):"と 表示されるlgroup のうち、</li> <li>"Lgroup resources:"フィールド の"(CPU)"の前に数字が1つしか なく、</li> <li>かつ、その数字が "(memory)" の直前に表示されていない場合</li> <li>[例]</li> <li># /usr/bin/lgrpinfo</li> </ul>	し、Oracle Solarisを再起動し てください。 set mpo_disabled=1
				 lgroup 12 (intermediate):	
				Children: 10, Parent: 0 CPUs: 0 1 Memory: installed 520M, allocated 494M, free 26M	
				Lgroup resources: 1 (CPU); 10 11 (memory) Latency: 21	
				• • •	

表 3-4 すべてのバージョンのOracle Solarisで発生しうる不具合と回避方法(続き)

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
16292272			0	16BBで1つの物理パーティショ ン(PPAR)を構成しているシ ステムで、ゲストドメインを多 数構成すると、ゲストドメイン のバインド処理に時間がかかり ます。 パインド処理に要する時間の目 安は、(すでにバインド状態のゲ ストドメイン数+1)×6+10秒です。 したがって、バインド状態に なっているドメインが1つもな い状態から、ldm bind-domain コマンドでゲストドメインを1 つずつバインド状態にすると、 各バインド処理に要する時間を 合計した時間がかかることにな ります。	システムを1つのPPARで構成 せずに、複数のPPARに分割し てから、各PPARにゲストドメ インを構成することを推奨します。 上記の構成にすることにより、 説明にあるような現象が軽減 されるだけでなく、耐故障性 の向上にもつながります。 バインド処理の時間を短縮す るためには、仮想ネットワー クスイッチ (vsw)を設定して いる場合、inter-vnet-linkをoff に設定することで、バインド 処理の時間が約半分に短縮で きます。なお、inter-vnet-link をoffに設定した場合の注意事 項は、『Oracle VM Server for SPARC Administration Guide』 や『Oracle VM Server for SPARC Release Notes』を参照 してください。

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
_	0	0	0	内蔵SASディスクドライブへの アクセスでエラーが検出された ときに、ディスクへのアクセス ができなくなることがあります。	内蔵HDDに対してMPxIO化す る設定を行ってください。な お、Enhanced Support Facility 5.0以降が適用された場合、以 下の操作は必要ありません。
					<ul> <li>[設定例]</li> <li>1. 搭載されているHDDのプロ ダクト、モデルをformat(1M) コマンドで確認します。</li> <li># format</li> </ul>
					2. 内蔵HDDの情報を /kernel/drv/scsi_vhci.conf ファイルへ追加します。
					[scsi_vhci.confファイルの設定 例] • Oracle Solaris 11の場合 scsi-vhci-failover- override = "TOSHIBA MBF2600RC", "f_sym";
					<ul> <li>Oracle Solaris 10の場合 device-type-scsi- options-list = "TOSHIBA MBF2600RC", "sym-opt"; sym-opt = 0x1000000;</li> </ul>
					3. stmsboot(1M)コマンドで MPxIOを有効化します。 # stmsboot -e

表	3-4	すべてのバージョンのOracle Solarisで発生しうる不具合と回避方法 (続	き)
---	-----	---	----

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
_	0	0	0	<ul> <li>10 Gigabit Ethernetカード (SP1X7HF1F)が搭載された論 理ドメインで、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?を trueに設定していると、コンソー ルに以下のワーニングメッセー ジが出力されるとともに、エ ラーログに"Msg: Device error (FCode informed error)"が記録 されます。</li> <li>WARNING: /pci@X, XXXXXX: FCODE mapin doesn't match decoded register type;</li> <li>また、showstatus(8)コマンドを 実行すると、該当するPCIカー ドが搭載された FRUに対して"Degraded"と表示 されることがあります。</li> </ul>	これらすべての出力は無視し てください。 これらの出力を回避する場合 は、okプロンプトで以下のコ マンドを実行し、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?を falseに設定してください。 setenv diag-switch? false

## Oracle Solaris 10に関する不具合と回避方法

サポートされているOracle Solaris 10で発生しうる不具合と回避方法を、以下の表に示します。

表 3-5 Oracle Solaris 10で発生しうる不具合と回避方法

CR ID	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
16024646	0	0	0	以下の両方の条件を満たした場 合、制御ドメインが"BAD TRAP: type=31"でパニック することがあります。 制御ドメインのオペレーティ ングシステムがSolaris 10の 場合 Idm list-domain -o memory primaryを実行した結果、 RA (実アドレス)が 0x20000000000 (32TB)よ り大きい場合	<ul> <li>以下の手順を実施してください。</li> <li>1. Idm list-domain -o memory primaryを実行し、SIZEの値を表示させます。</li> <li>2. Idm start-reconf primaryを実行し、遅延再構成モードにします。</li> <li>3. Idm remove-memory 256M primaryを実行し、割り当てられているメモリを減らします。</li> <li>4. Idm set-memory &lt;手順1のSIZEの値&gt; primaryを実行し、割り当てられているメモリを元のサイズに戻します。</li> <li>5. 制御ドメインのOracle Solarisを再起動します。</li> <li>6. Idm list-domains -o memory primaryを実行し、RAが0x2000000000より小さくなっていることを確認します。</li> <li>7. Idm add-spconfig &lt;構成情報名&gt;を実行し、XSCFに構成情報を保存します。</li> </ul>



# SPARC M10-1のハードウェアに関す る情報

ここでは、SPARC M10-1のハードウェアに関する特記事項や不具合について説明します。

- 留意点および制限事項
- SPARC M10-1のデバイスパス
- ハードウェアに関する不具合と回避方法

## 留意点および制限事項

## 外付けDVDドライブの使用に関する留意点

USBで接続される外付けDVDドライブでは、USBバスパワー駆動はサポートされていません。

### USBメモリの使用に関する留意点

XSCFコマンドのうち、データの保存先としてUSBメモリを指定するコマンドを実行 する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリを ご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモ リの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性およ び動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCF ファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。その ような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。 XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリ を接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラー の要因となる場合があります。

## ハードウェアRAIDに関する留意点

ハードウェアRAIDを使用する場合は、以下の留意事項があります。

#### ハードウェアRAID管理ユーティリティーについて

- SPARC M10システムのハードウェアRAID機能を使用する場合は、ハードウェア RAID環境を管理するために、LSI社より提供されるRAID管理ユーティリティー (sas2ircu: SAS2 Integrated RAID Configuration Utility)の使用を推奨します。 OpenBoot PROM環境ではハードウェアRAIDの設定はできますが、管理はできま せん。
- RAID管理ユーティリティーの入手方法は、『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の「12.2 ハードウェアRAIDを構成する」に記載されているLSI 社のウェブサイトを参照してください。使用方法は、同ウェブサイトに掲載されている『SAS2 Integrated RAID Solution User Guide』を参照してください。
- RAIDボリュームが故障した場合は、RAID管理ユーティリティーを使用することで、故障ディスクを特定できます。
- RAID管理ユーティリティーは、root権限を持つアカウントでログインしたOracle Solaris OS環境で使用します。このため、RAID管理ユーティリティーの操作はシ ステム管理者が行ってください。

#### ハードウェアRAID使用にあたっての留意点

- 重要なデータやプログラムは定期的にバックアップを行ってください。故障に よっては、ハードウェアRAIDの再構築を行い、バックアップメディアからのリス トア作業が必要となることがあります。
- 停電が発生した場合でもシステム内のデータを確実に保証するために、無停電電 源装置 (UPS)の使用を推奨します。
- コントローラ、データパスの二重化など、ハードウェアRAID機能に対してより高度な可用性が求められる場合は、専用のRAIDシステムを導入してください。

#### ハードウェアRAID構築/解除時の留意点

- ハードウェアRAIDの構築/解除時には、ディスク内のデータは保証されません。
   稼働中のシステムにハードウェアRAIDを新規に構築する場合や、構築されている
   ハードウェアRAIDをいったん解除する場合には、必ずデータのバックアップを実施してください。ハードウェアRAID構築後に、新規インストール、またはバックアップメディアからの復元作業が必要になります。
- ハードウェアRAIDを構築すると、RAIDボリュームは元のディスクのサイズより 小さくなります。

#### ハードウェアRAID運用中の留意点

ハードウェアRAIDコントローラがディスクを完全に故障と判断できず、システムス ローダウンが発生する場合があります。この状態で保守する場合は、以下の手順で実 施してください。ハードウェアRAIDを解除しますので、必ずデータのバックアップ を取った上で実施してください。

- 1. アプリケーションによる内蔵ディスクの使用を中止します。
- 2. ハードウェアRAIDを解除します。
- 3. ディスクに伴う問題かどうかを切り分けます。
- **4.** 問題が解決しない場合は、ハードウェア**RAID**の対象となっているディスクをすべて交換します。
- 5. ハードウェアRAIDを再構築します。
- 6. バックアップメディアからデータをリストアします。

# SPARC M10-1のデバイスパス

SPARC M10-1で認識されるデバイスパスは、以下のとおりです。

表 4-1 SPARC M10-1筐体内およびPCIボックス側のI/Oデバイスパス

デバイス	デバイスパス			
内蔵SAS	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0			
内蔵HDD#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p0			
内蔵HDD#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p1			
内蔵HDD#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p2			
内蔵HDD#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p3			
内蔵HDD#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p4			
内蔵HDD#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p5			
内蔵HDD#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p6			
内蔵HDD#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p7			
内蔵LAN#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/network@0			
内蔵LAN#1	/pci@8000/pci@4/pci@1/network@0,1			
内蔵LAN#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/network@0			
内蔵LAN#3	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/network@0,1			
内蔵USBポート				
rear: USB1.1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@2/pci@0/usb@4/****@1			
front: USB1.1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@2/pci@0/usb@4/****@2			
rear: USB2.0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@2/pci@0/usb@4,1/****@1			
front USB2.0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@2/pci@0/usb@4,1/****@2			
PCI#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/****@0			
PCI#1	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/****@0			
PCI#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/****@0			

#### SPARC M10-1筐体内およびPCIボックス側のI/Oデバイスパス(続き)

表 4-1 SI	PARC M10-1筐体内およびPCIボックス側のI/Oデバイスパス (続き)
デバイス	デバイスパス
PCI#0配下の	PCIボックス
PCI#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0
PCI#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0
PCI#8	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@0
PCI#10	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@0
PCI#7 PCI#8 PCI#9 PCI#10 PCI#11	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@01/****@ /pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@ /pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@ /pci@8000/pci@4/pci@0/pci@8/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@

PCI#1配下のPCIボックス

PCI#1	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/s***@0
PCI#5	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0
PCI#7	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0
PCI#8	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@0
PCI#10	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@0

PCI#2配下のPCIボックス

PCI#1	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci#0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pc
PCI#5	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@10/****@0
PCI#7	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0
PCI#8	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0

デバイス	デバイスパス
PCI#10	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/****@0

# ハードウェアに関する不具合と回避方 法

現時点で確認されている不具合はありません。



# SPARC M10-4のハードウェアに関す る情報

ここでは、SPARC M10-4のハードウェアに関する特記事項や不具合について説明します。

- 留意点および制限事項
- SPARC M10-4のデバイスパス
- ハードウェアに関する不具合と回避方法

## 留意点および制限事項

## 外付けDVDドライブの使用に関する留意点

USBで接続される外付けDVDドライブでは、USBバスパワー駆動はサポートされていません。

### USBメモリの使用に関する留意点

XSCFコマンドのうち、データの保存先としてUSBメモリを指定するコマンドを実行 する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリを ご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモ リの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性およ び動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCF ファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。その ような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。 XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリ を接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラー の要因となる場合があります。

## ハードウェアRAIDに関する留意点

ハードウェアRAIDを使用する場合は、以下の留意事項があります。

#### ハードウェアRAID管理ユーティリティーについて

- SPARC M10システムのハードウェアRAID機能を使用する場合は、ハードウェア RAID環境を管理するために、LSI社より提供されるRAID管理ユーティリティー (sas2ircu: SAS2 Integrated RAID Configuration Utility)の使用を推奨します。 OpenBoot PROM環境ではハードウェアRAIDの設定はできますが、管理はできま せん。
- RAID管理ユーティリティーの入手方法は、『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の「12.2 ハードウェアRAIDを構成する」に記載されているLSI 社のウェブサイトを参照してください。使用方法は、同ウェブサイトに掲載されている『SAS2 Integrated RAID Solution User Guide』を参照してください。
- RAIDボリュームが故障した場合は、RAID管理ユーティリティーを使用することで、故障ディスクを特定できます。
- RAID管理ユーティリティーは、root権限を持つアカウントでログインしたOracle Solaris OS環境で使用します。このため、RAID管理ユーティリティーの操作はシ ステム管理者が行ってください。

#### ハードウェアRAID使用にあたっての留意点

- 重要なデータやプログラムは定期的にバックアップを行ってください。故障に よっては、ハードウェアRAIDの再構築を行い、バックアップメディアからのリス トア作業が必要となることがあります。
- 停電が発生した場合でもシステム内のデータを確実に保証するために、無停電電 源装置 (UPS)の使用を推奨します。
- コントローラ、データパスの二重化など、ハードウェアRAID機能に対してより高度な可用性が求められる場合は、専用のRAIDシステムを導入してください。

#### ハードウェアRAID構築/解除時の留意点

- ハードウェアRAIDの構築/解除時には、ディスク内のデータは保証されません。
   稼働中のシステムにハードウェアRAIDを新規に構築する場合や、構築されている
   ハードウェアRAIDをいったん解除する場合には、必ずデータのバックアップを実施してください。ハードウェアRAID構築後に、新規インストール、またはバックアップメディアからの復元作業が必要になります。
- ハードウェアRAIDを構築すると、RAIDボリュームは元のディスクのサイズより 小さくなります。

#### ハードウェアRAID運用中の留意点

ハードウェアRAIDコントローラがディスクを完全に故障と判断できず、システムス ローダウンが発生する場合があります。この状態で保守する場合は、以下の手順で実 施してください。ハードウェアRAIDを解除しますので、必ずデータのバックアップ を取った上で実施してください。

- 1. アプリケーションによる内蔵ディスクの使用を中止します。
- 2. ハードウェアRAIDを解除します。
- 3. ディスクに伴う問題かどうかを切り分けます。
- 問題が解決しない場合は、ハードウェアRAIDの対象となっているディスクをすべて交換します。
- 5. ハードウェアRAIDを再構築します。
- 6. バックアップメディアからデータをリストアします。

# SPARC M10-4のデバイスパス

SPARC M10-4で認識されるデバイスパスは、以下のとおりです。

### 初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合

初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合のデバイスパスは、以下のとおりです。

注一以下のデバイスパスは、2 CPU構成から4 CPU構成に増設した場合にも適用されます。

#### SPARC M10-4筐体内のI/Oデバイスパス

表 5-1 SPARC M10-4筐体内のI/Oデバイスパス(初期導入時: 2 CPU)

デバイス		デバイスパス
LSB#0	内蔵SAS	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0
	内蔵HDD#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p0
	内蔵HDD#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p1
	内蔵HDD#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p2
	内蔵HDD#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p3
	内蔵HDD#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p4
	内蔵HDD#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p5
	内蔵HDD#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p6
	内蔵HDD#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p7
	内蔵LAN#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0
	内蔵LAN#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0,1
	内蔵LAN#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@a/network@0
	内蔵LAN#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@a/network@0,1

#### 表 5-1 SPARC M10-4筐体内のI/Oデバイスパス(初期導入時: 2 CPU) (続き)

内蔵USBポート(rear: USB1.1)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4/****@1
内蔵USBポート(rear: USB2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/****@1
内蔵USBポート(front: USB1.1/2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/hub@2/****@1
PCI#0	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#1	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#3	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#4	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#5	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#6	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@11/****@0
PCI#7	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#8	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#9	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#10	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@11/****@0
	内蔵USBポート (rear: USB1.1) 内蔵USBポート (rear: USB2.0) 内蔵USBポート (front: USB1.1/2.0) PCI#0 PCI#1 PCI#2 PCI#3 PCI#4 PCI#5 PCI#5 PCI#6 PCI#7 PCI#8 PCI#9 PCI#9

#### PCIボックス側のI/Oデバイスパス

リンクカードを接続した本体PCIスロットがPCI#Xの場合、表5-1のPCI#Xのデバイス パス/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/\*\*\*\*@0が示すvvvv、uに対して、以下のデバイス パスが作成されます。

表 5-2 PCIボックス側のI/Oデバイスパス	(初期導入時: 2 CPU)
--------------------------	----------------

デバイス	デバイスパス
PCI#X配下のPCI	ボックス
PCI#1	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#5	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0
PCI#7	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0
PCI#8	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@0
PCI#10	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@0

## 初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合

初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合のデバイスパスは、以下のとおりです。

注一以下のデバイスパスは、4 CPU構成から2 CPU構成に減設した場合にも適用されます。

#### SPARC M10-4の筐体内 I/Oデバイス

表 5-3 SPARC M10-4筐体内のI/Oデバイス(初期導入時: 4 CPU)

デバイス		デバイスパス
LSB#0	内蔵SAS	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0
	内蔵HDD#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p0
	内蔵HDD#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p1
	内蔵HDD#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p2
	内蔵HDD#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p3
	内蔵HDD#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p4
	内蔵HDD#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p5
	内蔵HDD#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p6
	内蔵HDD#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p7
	内蔵LAN#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0
	内蔵LAN#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0,1
	内蔵LAN#2	/pci@8400/pci@4/pci@0/pci@a/network@0
	内蔵LAN#3	/pci@8400/pci@4/pci@0/pci@a/network@0,1
	内蔵USBポート(rear: USB1.1)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4/****@1
	内蔵USBポート(rear: USB2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/****@1
	内蔵USBポート(front: USB1.1/2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/hub@2/****@1
	PCI#0	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#1	/pci@8500/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
	PCI#2	/pci@8500/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
	PCI#3	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#4	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
	PCI#5	/pci@8600/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
	PCI#6	/pci@8600/pci@4/pci@0/pci@11/****@0
	PCI#7	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#8	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
	PCI#9	/pci@8700/pci@4/pci@0/pci@9/****@0

#### PCI#10

/pci@8700/pci@4/pci@0/pci@11/\*\*\*\*@0

#### PCIボックス側のI/Oデバイス

リンクカードを接続した本体PCIスロットがPCI#Xの場合、表5-3のPCI#Xのデバイス パス/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/\*\*\*\*@0が示すvvvv、uに対して、以下のデバイス パスが作成されます。

表 5-4 PCIボックス側のI/Oデバイスパス	<ul><li>(初期導入時:4 CPU)</li></ul>
--------------------------	---------------------------------

デバイス	デバイスパス
PCI#X配下のPCI	ボックス
PCI#1	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@0/****@0
PCI#5	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0
PCI#7	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#8	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@0
PCI#10	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@0

# ハードウェアに関する不具合と回避方法

現時点で確認されている不具合はありません。



# SPARC M10-4Sのハードウェアに関 する情報

ここでは、SPARC M10-4Sのハードウェアに関する特記事項や不具合について説明します。

- 留意点および制限事項
- SPARC M10-4Sのデバイスパス
- ハードウェアに関する不具合と回避方法

## 留意点および制限事項

## 外付けDVDドライブの使用に関する留意点

USBで接続される外付けDVDドライブでは、USBバスパワー駆動はサポートされていません。

### USBメモリの使用に関する留意点

XSCFコマンドのうち、データの保存先としてUSBメモリを指定するコマンドを実行 する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリを ご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモ リの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性およ び動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCF ファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。その ような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。 XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリ を接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラー の要因となる場合があります。

## ハードウェアRAIDに関する留意点

ハードウェアRAIDを使用する場合は、以下の留意事項があります。

#### ハードウェアRAID管理ユーティリティーについて

- SPARC M10システムのハードウェアRAID機能を使用する場合は、ハードウェア RAID環境を管理するために、LSI社より提供されるRAID管理ユーティリティー (sas2ircu: SAS2 Integrated RAID Configuration Utility)の使用を推奨します。 OpenBoot PROM環境ではハードウェアRAIDの設定はできますが、管理はできま せん。
- RAID管理ユーティリティーの入手方法は、『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の「12.2 ハードウェアRAIDを構成する」に記載されているLSI 社のウェブサイトを参照してください。使用方法は、同ウェブサイトに掲載されている『SAS2 Integrated RAID Solution User Guide』を参照してください。
- RAIDボリュームが故障した場合は、RAID管理ユーティリティーを使用することで、故障ディスクを特定できます。
- RAID管理ユーティリティーは、root権限を持つアカウントでログインしたOracle Solaris OS環境で使用します。このため、RAID管理ユーティリティーの操作はシ ステム管理者が行ってください。

#### ハードウェアRAID使用にあたっての留意点

- 重要なデータやプログラムは定期的にバックアップを行ってください。故障に よっては、ハードウェアRAIDの再構築を行い、バックアップメディアからのリス トア作業が必要となることがあります。
- 停電が発生した場合でもシステム内のデータを確実に保証するために、無停電電 源装置 (UPS)の使用を推奨します。
- コントローラ、データパスの二重化など、ハードウェアRAID機能に対してより高度な可用性が求められる場合は、専用のRAIDシステムを導入してください。

#### ハードウェアRAID構築/解除時の留意点

- ハードウェアRAIDの構築/解除時には、ディスク内のデータは保証されません。
   稼働中のシステムにハードウェアRAIDを新規に構築する場合や、構築されている
   ハードウェアRAIDをいったん解除する場合には、必ずデータのバックアップを実施してください。ハードウェアRAID構築後に、新規インストール、またはバックアップメディアからの復元作業が必要になります。
- ハードウェアRAIDを構築すると、RAIDボリュームは元のディスクのサイズより 小さくなります。

#### ハードウェアRAID運用中の留意点

ハードウェアRAIDコントローラがディスクを完全に故障と判断できず、システムス ローダウンが発生する場合があります。この状態で保守する場合は、以下の手順で実 施してください。ハードウェアRAIDを解除しますので、必ずデータのバックアップ を取った上で実施してください。
- 1. アプリケーションによる内蔵ディスクの使用を中止します。
- 2. ハードウェアRAIDを解除します。
- 3. ディスクに伴う問題かどうかを切り分けます。
- 問題が解決しない場合は、ハードウェアRAIDの対象となっているディスクをすべて交換します。
- 5. ハードウェアRAIDを再構築します。
- 6. バックアップメディアからデータをリストアします。

# SPARC M10-4Sの活性/通電増設に関する制限事項

SPARC M10-4Sの活性/通電増設は、現時点ではサポートされていません。非活性/ 通電増設で作業してください。

非活性/通電増設の手順は、『SPARC M10システム インストレーションガイド』の「8.2.1 活性/通電増設」の手順10を以下に読み替えてください。

- 10. マスタXSCFより、該当のPPARを停止し、ケーブルチェックを行います。
  - a. **poweroff**コマンドを実行し、増設する**SPARC M10-4S**の組み込み先となる **PPAR**を停止します。

ppar\_idには、組み込み先PPAR番号を指定します。

XSCF> poweroff -y -p ppar\_id

b. diagxbuコマンドを実行し、ケーブルチェックを行います。

XXは増設したBB-IDを指定します。YY、ZZは、手順aで停止したPPARに組み込まれていたBB-IDを指定します。

XSCF> diagxbu -y -b XX -t YY -t ZZ

### クロスバーボックスの交換に関する制限事項

replacefru(8)コマンドを使用したクロスバーボックスの交換は、現時点ではサポート されていません。クロスバーボックスを交換する場合は以下の手順で実施してくださ い。

 showhardconfコマンドを実行して、交換対象のクロスバーボックスがマスタ筐 体でないことを確認します。

「Role:Master」となっているクロスバーボックスがマスタ筐体です。

XSCF> showhardconf

:

XBBOX#80 Status:Normal; Role:Master; Ver:2038h; Serial:2111206001;

2. 交換対象のクロスバーボックスがマスタ筐体の場合は、switchscfコマンドを実行して、スタンバイ状態に切り替えます。

XSCF> switchscf -y -t Standby

:

- 3. マスタXSCFが切り替えられたため、XSCFにログインしなおします。
- クロスバーボックスを使用している物理パーティション(PPAR)の電源を切断 してから、交換対象のクロスバーボックスの電源を切断します。
   クロスバーボックスのオペレーションパネルにあるPower-LEDが消灯されたことを確認します。
- 5. 交換対象のクロスバーボックスの入力電源を切断して、交換を実施します。

**注**-入力電源が切断されたときに、交換対象のクロスバーボックスに対するエラーログが登録されますが、すべて無視してください。

- クロスバーボックスの電源コードを入力電源に接続します。
   詳細は、『SPARC M10システム インストレーションガイド』の「5.4 クロスバーボックスにケーブルを接続する」を参照してください。
   クロスバーボックスのオペレーションパネルにあるSTANDBY-LEDが点灯する まで待機します。
- diagxbuコマンドを実行して、交換したクロスバーボックスに対して診断を実施 します。

XSCF> diagxbu -y -b XX -t YY -t ZZ

XX、YY、ZZには、電源切断状態のSPARC M10-4SのBB\_ID(00~15)を指定します。

8. **showlogsコマン**ドを実行して、診断中にエラーが発生していないことを確認し ます。

XSCF> showlogs error

9. 故障部品がないことを確認します。

XSCF> **showstatus** 

### 拡張接続用ラック2の増設に関する制限事項

addfru(8)コマンドを使用したクロスバーボックスの増設は、現時点ではサポートさ

れていません。『SPARC M10システム インストレーションガイド』の「8.4 拡張接続 用ラック2を増設する」にある手順17および18を以下に読み替えて、クロスバーボッ クスの増設作業を実施してください。

- クロスバーボックス、SPARC M10-4Sすべての電源コードを入力電源に接続します。
   詳細は、「5.2 SPARC M10-4/SPARC M10-4Sにケーブルを接続する」および「5.4 クロスバーボックスにケーブルを接続する」を参照してください。
- 18. ファームウェアをマスタXSCFと同じ版数にアップデートします。
  - XCP 2040以前の場合

XSCF> getflashimage file:///media/usb\_msd/images/XCPxxxx.tar.gz
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s version

XCP 2041以降の場合

XSCF> flashupdate -c sync

# SPARC M10-4Sのデバイスパス

SPARC M10-4Sで認識されるデバイスパスは、以下のとおりです。

### 初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合

初期導入時のCPU構成が2 CPUの場合のデバイスパスは、以下のとおりです。

注一以下のデバイスパスは、2 CPU構成から4 CPU構成に増設した場合にも適用されます。

#### SPARC M10-4S筐体内のI/Oデバイスパス

表 6-1 SPARC M10-4S筐体内のI/Oデバイスパス(初期導入時: 2 CPU)

デバイス		デバイスパス
LSB#0	内蔵SAS	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0
	内蔵HDD#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p0
	内蔵HDD#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p1
	内蔵HDD#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p2
	内蔵HDD#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p3
	内蔵HDD#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p4

#### 表 6-1 SPARC M10-4S筐体内のI/Oデバイスパス(初期導入時: 2 CPU) (続き)

内蔵HDD#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p5
内蔵HDD#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p6
内蔵HDD#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p7
内蔵LAN#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0
内蔵LAN#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0,1
内蔵LAN#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@a/network@0
内蔵LAN#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@a/network@0,1
内蔵USBポート(rear: USB1.1)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4/****@1
内蔵USBポート(rear: USB2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/****@1
内蔵USBポート(front: USB1.1/2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/hub@2/****@1
PCI#0	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#1	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#2	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#3	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#4	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#5	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#6	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@11/****@0
PCI#7	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
PCI#8	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
PCI#9	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
PCI#10	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@11/****@0

#### PCIボックス側のI/Oデバイスパス

リンクカードを接続した本体PCIスロットがPCI#Xの場合、表6-1のPCI#Xのデバイス パス/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/\*\*\*\*@0が示すvvvv、uに対して、以下のデバイス パスが作成されます。

<b>表 6-2</b> PCIボックス側のI/Oデバイスパス(初期導入時 : 2 CI	U)
--	----

デバイス	デバイスパス
PCI#X配下のPCI	ボックス
PCI#1	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#2	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#3	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0
PCI#4	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#5	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0
PCI#6	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0

PCI#7	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0
PCI#8	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0
PCI#9	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0
PCI#10	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/****@0
PCI#11	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/****@0

### 論理システムボードのI/Oデバイスパス

LSB#1~LSB#15のI/Oデバイスパスについては、表6-1における先頭のデバイスノード (/pci@vvvv) が表6-2のようになります。他のノードは表6-1と同じです。 例えばLSB#1の場合は、表6-1を次の順序で読み替えてください。LSB#2~LSB#15も 同様に読み替えてください。 /pci@8000→/pci@8800、/pci@8100→/pci@8900、/pci@8200→/pci@8a00、/pci@8300→

/pci@8000→/pci@8800、/pci@8100→/pci@8900、/pci@8200→/pci@8a00、/pci@8300 /pci@8b00

LSB番号	デバイスパス	
LSB#1	/pci@8800/…	
	/pci@8900/…	
	/pci@8a00/…	
	/pci@8b00/…	
LSB#2	/pci@9000/…	
	/pci@9100/…	
	/pci@9200/…	
	/pci@9300/…	
LSB#3	/pci@9800/…	
	/pci@9900/…	
	/pci@9a00/…	
	/pci@9b00/…	
LSB#4	/pci@a000/…	
	/pci@a100/…	
	/pci@a200/…	
	/pci@a300/…	
LSB#5	/pci@a800/…	
	/pci@a900/…	
	/pci@aa00/…	
	/pci@ab00/····	

表 6-3 LSB#1~LSB#15 のI/Oデバイスパス(初期導入時: 2 CPU)

LSB#6	/pci@b000/…
	/pci@b100/…
	/pci@b200/…
	/pci@b300/…
LSB#7	/pci@b800/…
	/pci@b900/…
	/pci@ba00/····
	/pci@bb00/····
LSB#8	/pci@c000/
	/pci@c100/
	/pci@c200/…
	/pci@c300/
LSB#9	/pci@c800/
	/pci@c900/
	/pci@ca00/····
	/pci@cb00/
LSB#10	/pci@d000/…
	/pci@d100/…
	/pci@d200/…
	/pci@d300/…
LSB#11	/pci@d800/…
	/pci@d900/…
	/pci@da00/···
	/pci@db00/···
LSB#12	/pci@e000/…
	/pci@e100/…
	/pci@e200/…
	/pci@e300/…
LSB#13	/pci@e800/…
	/pci@e900/…
	/pci@ea00/…
	/pci@eb00/····
LSB#14	/pci@f000/…
	/pci@f100/…
	/pci@f200/…

	/pci@f300/…
LSB#15	/pci@f800/…
	/pci@f900/…
	/pci@fa00/····
	/pci@fb00/····

### 初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合

初期導入時のCPU構成が4 CPUの場合のデバイスパスは、以下のとおりです。

注一以下のデバイスパスは、4 CPU構成から2 CPU構成に減設した場合にも適用されます。

### SPARC M10-4Sの筐体内 I/Oデバイス

表 6-4 SPARC M10-4S筐体内のI/Oデバイス(初期導入時:4 CPU)

デバイス		デバイスパス
LSB#0	内蔵SAS	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0
	内蔵HDD#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p0
	内蔵HDD#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p1
	内蔵HDD#2	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p2
	内蔵HDD#3	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p3
	内蔵HDD#4	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p4
	内蔵HDD#5	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p5
	内蔵HDD#6	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p6
	内蔵HDD#7	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@0/scsi@0/disk@p7
	内蔵LAN#0	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0
	内蔵LAN#1	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@9/network@0,1
	内蔵LAN#2	/pci@8400/pci@4/pci@0/pci@a/network@0
	内蔵LAN#3	/pci@8400/pci@4/pci@0/pci@a/network@0,1
	内蔵USBポート(rear: USB1.1)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4/****@1
	内蔵USBポート(rear: USB2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/****@1
	内蔵USBポート(front; USB1.1/2.0)	/pci@8000/pci@4/pci@0/pci@1/pci@0/usb@4,1/hub@2/****@1
	PCI#0	/pci@8100/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#1	/pci@8500/pci@4/pci@0/pci@8/****@0

表 6-4 SPARC M10-4S筐体内のI/Oデバイス(初期導入時: 4 CPU)(続き)

デバイス		デバイスパス
	PCI#2	/pci@8500/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
	PCI#3	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#4	/pci@8200/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
	PCI#5	/pci@8600/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
	PCI#6	/pci@8600/pci@4/pci@0/pci@11/****@0
	PCI#7	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@0/****@0
	PCI#8	/pci@8300/pci@4/pci@0/pci@8/****@0
	PCI#9	/pci@8700/pci@4/pci@0/pci@9/****@0
	PCI#10	/pci@8700/pci@4/pci@0/pci@11/****@0

### PCIボックス側のI/Oデバイス

リンクカードを接続した本体PCIスロットがPCI#Xの場合、表6-4のPCI#Xのデバイス パス/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/\*\*\*\*@0が示すvvvv、uに対して、以下のデバイス パスが作成されます。

**表 6-5** PCIボックス側のI/Oデバイスパス(初期導入時:4 CPU)

デバイス	デバイスパス			
PCI#X配下のPCI				
PCI#1	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/****@0			
PCI#2	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@1/****@0			
PCI#3	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@0/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@8/****@0			
PCI#4	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@0/****@0			
PCI#5	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@1/****@0			
PCI#6	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@10/****@0			
PCI#7	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@10/pci@0/pci@11/****@0			
PCI#8	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/****@0			
PCI#9	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@1/****@0			
PCI#10	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@10/****@0			
PCI#11	/pci@vvvv/pci@4/pci@0/pci@u/pci@0/pci@0/pci@1/pci@0/pci@11/pci@0/pci@11/****@0			

#### 論理システムボードのI/Oデバイス

LSB#1~LSB#15のI/Oデバイスパスについては、表6-4における先頭のデバイスノード (/pci@vvvv) が表6-5のようになります。他のノードは表6-4と同じです。 例えばLSB#1の場合は、表6-4を次の順序で読み替えてください。LSB#2~LSB#15も 同様に読み替えてください。 /pci@8000→/pci@8800、/pci@8100→/pci@8900、/pci@8200→/pci@8a00、/pci@8300→ /pci@8b00 /pci@8400→/pci@8c00、/pci@8500→/pci@8d00、/pci@8600→/pci@8e00、/pci@8700→ /pci@8f00

LSB番号	デバイスパス
LSB#1	/pci@8800/…
	/pci@8900/…
	/pci@8a00/…
	/pci@8b00/…
	/pci@8c00/…
	/pci@8d00/…
	/pci@8e00/…
	/pci@8f00/…
LSB#2	/pci@9000/…
	/pci@9100/…
	/pci@9200/…
	/pci@9300/…
	/pci@9400/…
	/pci@9500/…
	/pci@9600/…
	/pci@9700/…
_SB#3	/pci@9800/…
	/pci@9900/…
	/pci@9a00/…
	/pci@9b00/…
	/pci@9c00/…
	/pci@9d00/…
	/pci@9e00/…
	/pci@9f00/…
LSB#4	/pci@a000/…
	/pci@a100/…
	/pci@a200/…
	/pci@a300/…
	/pci@a400/…
	/pci@a500/…
	/pci@a600/…

表 6-6 LSB#1~LSB#15のI/Oデバイス(初期導入時:4 CPU)

LSB番号	デバイスパス
	/pci@a700/…
LSB#5	/pci@a800/…
	/pci@a900/…
	/pci@aa00/…
	/pci@ab00/…
	/pci@ac00/…
	/pci@ad00/…
	/pci@ae00/…
	/pci@af00/…
LSB#6	/pci@b000/…
	/pci@b100/…
	/pci@b200/…
	/pci@b300/…
	/pci@b400/…
	/pci@b500/…
	/pci@b600/…
	/pci@b700/…
LSB#7	/pci@b800/…
	/pci@b900/…
	/pci@ba00/…
	/pci@bb00/…
	/pci@bc00/…
	/pci@bd00/…
	/pci@be00/…
	/pci@bf00/…
LSB#8	/pci@c000/…
	/pci@c100/…
	/pci@c200/…
	/pci@c300/…
	/pci@c400/…
	/pci@c500/…
	/pci@c600/…
	/pci@c700/…
LSB#9	/pci@c800/…

表 6-6	LSB#1~LSB#15のI	[/Oデバイス	(初期導入時:	4 CPU)	(続き)
-------	----------------	---------	---------	--------	------

<b>表 6-6</b> LSB#1~LSB#15のI/Oデバイス(初期導入時 : 4 CPL	J) (続き)
---	---------

LSB番号	デバイスパス
	/pci@c900/
	/pci@ca00/····
	/pci@cb00/····
	/pci@cc00/····
	/pci@cd00/····
	/pci@ce00/…
	/pci@cf00/····
LSB#10	/pci@d000/…
	/pci@d100/…
	/pci@d200/…
	/pci@d300/…
	/pci@d400/…
	/pci@d500/…
	/pci@d600/…
	/pci@d700/…
LSB#11	/pci@d800/…
	/pci@d900/…
	/pci@da00/…
	/pci@db00/…
	/pci@dc00/····
	/pci@dd00/…
	/pci@de00/…
	/pci@df00/····
LSB#12	/pci@e000/…
	/pci@e100/…
	/pci@e200/…
	/pci@e300/…
	/pci@e400/…
	/pci@e500/…
	/pci@e600/…
	/pci@e700/…
LSB#13	/pci@e800/…
	/pci@e900/…
	/pci@ea00/…

# ハードウェアに関する不具合と回避方 法

現時点で確認されている不具合はありません。



# PCIボックスのハードウェアに関する 情報

ここでは、PCIボックスのハードウェアに関する特記事項や不具合について説明します。

■ PCIボックスに関する不具合と回避方法

# PCIボックスに関する不具合と回避方法

PCIボックスで発生しうる不具合とこれらの不具合に対する回避方法を、以下の表に示します。

表 7-1 PCIボックスに関する不具合と回避方法

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
_		0	0	PCIボックスをPCIホットプラグ (PHP) で組み込む場合、PCI ボックスのスロット6、7、10、 11のうちHBAが搭載されていな い箇所は、Oracle Solarisの cfgadm(1M)コマンドの実行結 果がemptyではなく、 disconnectedとなります。 表示には問題がありますが、 HBAを搭載すると通常どおり動 作します。 なお、PCIボックスを接続した あとに論理ドメインを再起動し た場合は、この現象は発生しま せん。	表示の問題だけで動作に影響は ありません。
_		0	0	PCIボックスをPCIホットプラグ (PHP) で組み込む場合、lane degradeすることがあります。	PHPを実施する場合は、cfgadm -c connectを実行しないで、 cfgadm -c configureを実行して ください。

表 7-1 PCIボックスに関する不具合と回避方法(続き)

RTI番号	SPARC M10-1	SPARC M10-4	SPARC M10-4S	説明	回避方法
_		0	0	PCIボックスをPCIホットプラグ (PHP) で組み込む場合、 PCI-Expressコレクタブルエ ラーが発生し、次のリブート時 にPCIボックスが縮退されるこ とがあります。	PCIボックスをPHPで組み込ん だあとにフォルトエラーメッ セージが出力される場合は、 PCIボックスを再度組み込んで ください。
_		0	0	PCIボックスをPCIホットプラグ (PHP) で組み込む場合、PCI ボックスが認識されないことが あります。	PCIボックスをPHPで組み込ん だあとにPCIボックスが認識さ れない場合は、PCIボックスを 再度組み込んでください。



## マニュアルの変更内容

ここでは、SPARC M10 システム関連マニュアルに関して、出版後に確認された最新の情報やマニュアルの変更内容を示します。

- 『SPARC M10 システム インストレーションガイド』の変更内容
- 『SPARC M10-1 サービスマニュアル』の変更内容
- 『SPARC M10-4/M10-4S サービスマニュアル』の変更内容
- 『SPARC M10 システム版 PCIボックス サービスマニュアル』の変更内容
- 『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の変更内容
- 『SPARC M10 システム ドメイン構築ガイド』の変更内容
- 『SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュアル』の変更内容
- 『SPARC M10 システム はじめにお読みください』の変更内容

# 『SPARC M10 システム インストレー ションガイド』の変更内容

ここでは、現在確認されている、『SPARC M10 システム インストレーションガイド』 の変更内容を示します。

表 8-1	SPARC M	0システム /	インストレーシ	/ョンガイド	』の変更内容
-------	---------	---------	---------	--------	--------

項番または項目	変更内容
4.3.1	「4.3.1 クロスバーケーブルの変更(拡張接続用ラック2を後から増設する場合)」の 手順2と3が変更されます。詳細は「クロスバーケーブルの変更(拡張接続用ラック2 を後から増設する場合)」を参照してください。

#### 表 8-1 『SPARC M10 システム インストレーションガイド』の変更内容 (続き)

項番または項目	変更内容			
4.3.2	<ul> <li>「4.3.2 クロスバーケーブルの接続」の手順2が以下に変更されます。</li> <li>クロスバーケーブルは、筐体ごとにまとめてホーミングしてあります。ホーミングはそのままの状態でケーブルを接続します。</li> <li>ケーブルは、筐体側のポート表示とケーブルのラベルが対応するように接続します。また、同じポート番号が2ポートずつあります。筐体側の各ポートを色で分けていますので、同じ色同士のポートと接続します。</li> <li>クロスバーケーブル(光)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっすぐ挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでください。</li> </ul>			
5.2	「5.2 SPARC M10-4/SPARC M10-4Sにケーブルを接続する」の手順1にある注が以 下に変更されます。 注ー通常BB#00がマスタXSCFとなり、BB#01がスタンバイ状態のXSCFとなります。 マスタが切り替わっている場合は、BB#01がマスタXSCFとなり、BB#00がスタ ンバイ状態のXSCFとなります。			
5.3	「5.3 PCIボックスのケーブルを接続する」の手順2にある2つの注が変更されます。 詳細は「PCIボックスにケーブルを接続する」を参照してください。			
5.4	「5.4 クロスバーボックスにケーブルを接続する」の手順1にある注が以下に変更さ れます。 注一通常XBBOX#80がマスタXSCFとなり、XBBOX#81がスタンバイ状態のXSCFと なります。マスタが切り替わっている場合は、XBBOX#81がマスタXSCFとなり、 XBBOX#80がスタンバイ状態のXSCFとなります。			
6.1	「6.1 筐体にシステム管理用端末を接続する」の手順2にある注が以下に変更されま す。 注一筐体間直結の場合、通常BB#00がマスタXSCFとなり、BB#01がスタンバイ状態 のXSCFとなります。クロスバーボックス経由接続の場合、通常XBBOX#80がマ スタXSCFとなり、XBBOX#81がスタンバイ状態のXSCFとなります。マスタが 切り替わっている場合は、BB#01またはXBBOX#81がマスタXSCFとなり、 BB#00またはXBBOX#80がスタンバイ状態のXSCFとなります。			

### クロスバーケーブルの変更(拡張接続用ラック2を 後から増設する場合)

- 2. **XBBOX#80/#81**のクロスバーケーブル(光)を移設します。
  - a. クロスバーユニット#1のL4からL7とR4からR7のクロスバーケーブルを外し ます。

クロスバーケーブル(光)のタブ(図8-1のA)を持ち、矢印方向にまっすぐ 引っ張り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでく ださい。ケーブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除され ずに、破損の原因となります。

**b.** 外したケーブルのラベルを貼り替えます。

貼り替え用のラベルは拡張接続用ラック2に添付されています。

c. クロスバーユニット#2のL0からL3とR0からR3にクロスバーケーブルを接続 します。ラベルに従って、ケーブルを実装してください。 クロスバーケーブル(光)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっす ぐ挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでください。

注-クロスバーケーブル(光)は2種類あります。同一ポート番号に、同じ種類のケーブル を接続してください。タブの形状により判別できます。タブの形状は図8-2を参照してください。



図 8-1 クロスバーケーブルのタブと引き抜き方向

図 8-2 クロスバーケーブル(光)の形状とタブ



図中番号	説明
1	タブ

### PCIボックスにケーブルを接続する

#### 2. リンクケーブルを接続します。

**注**-2本のリンクケーブルは同じものです。各ケーブルの両端には同じ表示のラベルが貼っています。ケーブルを配線する場合は、リンクカード、リンクボードの同じ位置に同じラベルのケーブルが接続されていることを確認してください。

#### 図 8-3 リンクケーブル(光)の形状とタブ



図中番号	
1	タブ

**注-2**個のポートは同じ形をしているため、接続を間違えることがあります。ラベルをチェックして、正しいポートに接続されていることを確認してください。 リンクケーブル(電気)またはリンクケーブル(光)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっすぐ挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでください。

# 『SPARC M10-1 サービスマニュア ル』の変更内容

ここでは、現在確認されている、『SPARC M10-1 サービスマニュアル』の変更内容 を示します。

項番または項目	変更内容				
はじめに	以下の記載は削除されます。「対象読者」に記載されます。 本書は、ハードウェアのトラブルシューティングと交換に関する高度な知識のある ユーザーを対象としています。				
	以下の記載が追加されます。 保守作業は、当社技術員、保守作業者が実施します。				
	「対象読者」の記載は、以下に変更されます。 本書は、システムの保守を行う当社技術員、保守作業者を対象にして書かれていま す。				
	「関連マニュアル」にある富士通マニュアルのURLが、以下に変更されます。 ■ 富士通マニュアル http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual				
	「マニュアルへのフィードバック」にある日本語サイトのURLが、以下に変更され ます。 ■ 日本語サイト http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual				
1.2	「1.2 ラベル/タグ」の規格ラベルに記載される認定規格は、以下に変更されます。 ● 安全:NRTL/C ■ 電波:VCCI-A、FCC-A、DOC-A、KCC、C-Tick ■ 安全と電波:CE、CCC、BSMI、GOST-R				
7.1	「7.1 マザーボードユニットの位置」に以下の注意が追加されます。 注意-マザーボードユニットは、PSUバックプレーンと同時に交換しないでくださ い。マザーボードユニットとPSUバックプレーンを同時に交換すると、システムが 正常に動作しなくなります。マザーボードユニットまたはPSUバックプレーンを交 換し、showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで交換したField Replaceable Unit (FRU)が正常であることを確認したあと、残りのFRUを交換し てください。				
7.2.2	<ul> <li>以下の注意は「7.1 マザーボードユニットの位置」に移動されるため、「7.2.2 交換時の留意事項」から削除されます。</li> <li>PSUバックプレーンと同時に交換しない マザーボードユニットとPSUバックプレーンを同時に交換すると、システムが正常に動作しなくなります。マザーボードユニットまたはPSUバックプレーンを交換し、showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで交換したField Replaceable Unit (FRU)が正常であることを確認したあと、残りのFRUを交換 してください。</li> </ul>				
7.5.1	「7.5.1 マザーボードユニットを取り付ける」の手順6にケーブルガイドにケーブル を収納する手順が追加されます。詳細は「ケーブルガイドにケーブルを収納する」 を参照してください。				
16章	「第16章 ケーブルキットを保守する」が追加されます。詳細は、「付録 A SPARC M10-1のケーブルキットを保守する」を参照してください。				

## ケーブルガイドにケーブルを収納する

6. マザーボードユニットのケーブルをケーブルガイドに収納します。

図 8-4 ケーブルガイドの位置



位置番号	コンポーネント
1	ケーブルガイド

a. HDDバックプレーンとPSUバックプレーンを接続するケーブル(赤/黒)(図 中A)をクランプの中央からケーブルガイドに収納します。



b. ケーブルガイド上部のクランプの片側を中央から上へ押し上げて開放し(図 中D)、オペレーションパネルとマザーボードユニットを接続するケーブル(黒 /黄/白)(図中B)をケーブルガイドに収納します。 図 8-6 ケーブル (黒/黄/白)の収納



c. ケーブルガイド上部のクランプの片側を中央から上へ押し上げて開放し(図 中D)、オペレーションパネルとマザーボードユニットを接続するケーブル (黒)(図中C)をケーブルガイドに収納します。



d. 各ケーブルが図8-8のようにケーブルガイドに収納されていることを確認します。

図 8-8 前面から見たケーブル収納後のガイド断面図



- e. フォーミングされた各ケーブルがファン部カバーに干渉しない状態になって いることを確認し、ファン部カバーを取り付けます。
- 図 8-9 ファン部カバーの取り付け



# 『SPARC M10-4/M10-4S サービスマ ニュアル』の変更内容

ここでは、現在確認されている、『SPARC M10-4/M10-4S サービスマニュアル』の変 更内容を示します。

項番または項目	変更内容
1.3	「1.3 ラベル/タグ」の規格ラベルに記載される認定規格は、以下に変更されます。 SPARC M10-4/M10-4S ● 安全:NRTL/C ■ 電波:VCCI-A、FCC-A、DOC-A、KCC、C-Tick ■ 安全と電波:CE、BSMI、GOST-R
	クロスバーボックス
4.3	「4.3 保守の形態を理解する」の「表4-8 ケーブルの保守形態」にある、「クロスバー ケーブル(電気)」および「クロスバーケーブル(光)」の「非活性/通電」は「な し」に変更されます。
7.4.4	「7.4.4 PCI Expressケーブルを取り外す」の一部の手順がモデルごとに書き分けら れます。詳細は「PCI Expressケーブルを取り外す」を参照してください。
7.5.1	「7.5.1 PCI Expressケーブルを取り付ける」の一部の手順がモデルごとに書き分け られます。詳細は「PCI Expressケーブルを取り付ける」を参照してください。
7.5.2	「7.5.2 CPUメモリユニット(上段)を取り付ける」の手順4が変更されます。 詳細は「CPUメモリユニット(上段)を取り付ける」を参照してください。
24.2.1	「24.2.1 保守の形態」の「表24-1 クロスバーケーブル(電気)の保守形態」にある 「非活性/通電」は「なし」に変更されます。
24.3.1	「24.3.1 非活性/通電保守」は削除されます。
24.4	「24.4 クロスバーケーブル(電気)を取り外す」の手順1と2が変更されます。詳細 は「クロスバーケーブル(電気)を取り外す」を参照してください。
24.5	「24.5 クロスバーケーブル(電気)を取り付ける」の手順1および2が以下に変更さ
	<ol> <li>ビルディングブロック拡張キット#1に添付されている接続先表示用ラベルに、交換する新しいクロスバーケーブル(電気)のコネクター1、2のそれぞれ該当する接続先を記入し、クロスバーケーブル(電気)に貼り付けます。また、接続先を表示したラベルの隣に、同様に添付されている色表示ラベルから該当するラベルを選択し貼り付けます。</li> <li>それぞれの筐体にクロスバーケーブル(電気)を2本ずつ接続します。 クロスバーケーブル(電気)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっすぐ 振りした。</li> </ol>
25.3.1	
25.3.2	更されます。 5. 保守対象のSPARC M10-4Sの電源ユニットから電源コードをすべて取り外しま す。
25.4	「25.4 クロスバーケーブル(光)を取り外す」に以下の注が追加されます。 <b>注</b> ークロスバーボックス側は通電状態でクロスバーケーブルを取り外しても問題あ りません。
	手順1と2が変更されます。詳細は「クロスバーケーブル(光)を取り外す」を参照 してください。

項番または項目	変更内容
25.5	「25.5 クロスバーケーブル(光)を取り付ける」に以下の注が追加されます。 <b>注-</b> クロスバーボックス側は通電状態でクロスバーケーブルを接続しても問題あり ません。
	手順1として以下が追加されます。既存の手順1は手順2に変更されます。 <ol> <li>ビルディングブロック拡張ラックのクロスバーボックスの上に添付されている接続先表示用ラベルに、交換する新しいクロスバーケーブル(光)のコネクター1、</li> <li>2のそれぞれ該当する接続先を記入し、クロスバーケーブル(光)に貼り付けます。また、接続先を表示したラベルの隣に、同様に添付されている色表示ラベルから該当するラベルを選択し貼り付けます。</li> </ol>
	手順1が変更されます。詳細は「クロスバーケーブル(光)を取り付ける」を参照し てください。
25.6.1 25.6.2	「25.6.1 非活性/停電保守」および「25.6.2 システム停止保守」の手順1は、以下に 変更されます。 1. 保守対象のSPARC M10-4Sの電源ユニットに電源コードをすべて接続します。
26.5	「26.5 XSCF BB制御ケーブルを取り付ける」の手順1として以下が追加されます。 以降の手順は繰り下げられます。 1. ビルディングブロック拡張キット#1またはビルディングブロック拡張ラック に 添付されている接続先表示用ラベルに、交換する新しいXSCF BB制御ケーブルの コネクター1、2のそれぞれ該当する接続先を記入し、XSCF BB制御ケーブルに 貼り付けます。
27.5	「26.5 XSCF DUAL制御ケーブルを取り付ける」の手順1として以下が追加されます。 以降の手順は繰り下げられます。 1. ビルディングブロック拡張キット#1またはビルディングブロック拡張ラック に 添付されている接続先表示用ラベルに、交換する新しいXSCF DUAL制御ケーブ ルのコネクター1、2のそれぞれ該当する接続先を記入し、XSCF DUAL制御ケー ブルに貼り付けます。
29章	「第29章 クロスバーボックスのケーブルキットを保守する」が追加されます。詳細 は、「付録 B クロスバーボックスのケーブルキットを保守する」を参照してくださ い。

### PCI Expressケーブルを取り外す

CPUメモリユニット(上段)を減設する場合、またはPCIeケーブルを交換する場合 は、PCIeケーブルを取り外します。CPUメモリユニット(上段)を増設する場合は、 手順9まで行います。

SPARC M10-4の場合、手順2から行います。

 CPUメモリユニット(下段)背面のXSCFケーブル接続ポート両端のねじ8本を 取り外します。
 取り外しにはマイナスドライバー(小)を使用します。

SPARC M10-4の場合、この手順は必要ありません。

図 8-10 XSCFケーブル接続ポート両端のねじ位置(SPARC M10-4Sの場合)



2. CPUメモリユニット(下段)背面の上部からねじ2本を緩め、背面カバー(図中 A)を矢印方向に引いて、取り外します。 図 8-11 背面カバーの取り外し



- 3. XSCF基板を取り外します。
  - SPARC M10-4Sの場合、XSCF基板(図中A)を固定しているねじ4本を取り 外し、XSCF基板の右側を持ち上げコネクターの接続を外します。



 SPARC M10-4の場合、XSCF基板(図中A)および背面カバーを固定している ねじ4本を取り外し、XSCF搭載台の右側レバーを指で右方向に5 mm (0.2 in.)ほど倒し(図中B)、XSCF基板の右側を持ち上げコネクターの接続を外 します(図中C)。

図 8-13 XSCF基板の接続取り外し(SPARC M10-4の場合)



4. XSCF基板を斜め右方向(矢印)に引いて抜き取ります。

注-取り外したXSCF基板は、接地された静電気除去用の導電マットの上に置いてください。

図 8-14 XSCF基板の抜き取り(SPARC M10-4Sの場合)



図 8-15 XSCF基板の抜き取り(SPARC M10-4の場合)



5. XSCF搭載台(図中A)を固定しているねじ1本を取り外します。



図 8-17 XSCF搭載台の固定ねじ(SPARC M10-4の場合)



 SCF搭載台(図中A)の左側突起レバーを筐体外側から指で上方向に2mm (0.1in.) ほど持ち上げ(図中 B)、手前に8mm(0.4in.) ほどスライド(図中 C)させたあと、上側に取り外します(図中D)。





7. 正面側ラジエーター中央部を固定している黒色のねじ1本(図中A)と、CPUメ モリユニット基板(図中B)を固定しているねじ4本を取り外します。


8. CPUメモリユニット基板の左右中央にあるコネクター部の基板下に指を入れ CPUメモリユニット基板を持ち上げてコネクターの接続を外し、取り外します。

注-取り外したCPUメモリユニット基板は、接地された静電気除去用の導電マットの上に置いてください。

図 8-21 CPUメモリユニット基板の取り外し



- 9. シート(図中A)を取り外します。 CPUメモリユニット(上段)を増設する場合は、ここまでです。手順10は必要 ありません。
- 図 8-22 シートの取り外し



10. PCleケーブル3本を取り外します。



### PCI Expressケーブルを取り付ける

CPUメモリユニット(上段)を増設する場合、またはPCIeケーブルを交換する場合 は、PCIeケーブルを接続します。CPUメモリユニット(上段)を減設する場合は、 手順2から行います。

**注**-CPUメモリユニット(上段)を増設する場合は、あらかじめCPUメモリユニット(下段) にPCIeケーブルを接続します。PCIeケーブルはCPUメモリユニット(上段)の付属品として 添付されています。

 PCleケーブル3本を接続します。 CPUメモリユニット(上段)を減設する場合、PCIeケーブルを接続しないため、 この手順は必要ありません。

注-PCIeケーブルが確実に接続され、固定されていることを確認してください。



- 2. シート (図中A) を取り付けます。
- 図 8-25 シートの取り付け



CPUメモリユニット基板を基板正面側の右側ガイド(図中A)を目安に取り付け、CPUメモリユニット基板の左右中央にあるコネクター部(図中B)を押し、コネクターを接続させます。





- CPUメモリユニット基板をねじ4本と、正面側ラジエーター中央部を黒色のねじ 1本で固定します。
- 5. **XSCF搭載台を正面側にスライドさせて取り付け、ねじ1本で固定します**。 左側1か所と右下側2か所のガイドを合わせてXSCF搭載台を取り付けます。



- 6. **XSCF**基板を取り付けます。
  - SPARC M10-4Sの場合は、XSCF基板を左側のガイド(図中A)に差し込んだ あと、右側のコネクター部(図中B)を下に押してコネクターを接続し、ねじ 2本で固定します。



SPARC M10-4の場合は、XSCF基板を搭載台のガイド2か所(図中A)に差し込んだあと(図中B)、搭載台の右側レバーを5mm(0.2in.)ほど右側に押して(図中C)、コネクター部(図中D)を接続し(図中E)、ねじ2本で固定します(図中F)。

図 8-29 XSCF基板の取り付け(SPARC M10-4の場合)





7. CPUメモリユニット(下段)背面の上部から背面カバーをねじ2本で取り付けます。

図 8-30 背面カバーのねじ



 CPUメモリユニット(下段)背面のXSCFケーブル接続ポート両端のねじ8本を 取り付けます。
 SPARC M10-4の場合、この手順は必要ありません。

図 8-31 XSCFケーブル接続ポート両端のねじ位置(SPARC M10-4Sの場合)



### CPUメモリユニット(上段)を取り付ける

左側面ガイドおよび右側面ガイドを取り付けます。
 各ガイドにつめは4か所あります。それぞれのつめに取り付けて、ガイドのロックを押しながらスライドさせます。

注-左右側面ガイドを取り付けるときにPCIeケーブルを傷つけないように注意してください。



図 8-33 CPUメモリユニットと側面ガイドのつめ位置





### クロスバーケーブル(電気)を取り外す

- SPARC M10-4Sからクロスバーケーブル(電気)2本を取り外します。 クロスバーケーブル(電気)のタブ(図中A)を持ち、矢印方向にまっすぐ引っ 張り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでください。 ケーブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除されずに、破損の 原因となります。
- 2. **もう一方の筐体からクロスバーケーブル(電気)2本を取り外します。** クロスバーケーブル(電気)のタブ(図中A)を持ち、矢印方向にまっすぐ引っ

張り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでください。 ケーブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除されずに、破損の 原因となります。



図 8-34 クロスバーケーブル(電気)の取り外し

### クロスバーケーブル(電気)を取り付ける

それぞれの筐体にクロスバーケーブル(電気)を2本ずつ接続します。
 クロスバーケーブル(電気)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっすぐ
 挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでください。

### クロスバーケーブル(光)を取り外す

1. **SPARC M10-4S**からクロスバーケーブル(光)2本を取り外します。 クロスバーケーブル(光)のタブ(図中A)を持ち、矢印方向にまっすぐ引っ張

第8章 マニュアルの変更内容 111

り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでください。ケー ブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除されずに、破損の原因 となります。

## 2. クロスバーボックスからもう一方のクロスバーケーブル(光)**2**本を取り外します。

クロスバーケーブル(光)のタブ(図中A)を持ち、矢印方向にまっすぐ引っ張り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでください。ケーブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除されずに、破損の原因となります。

### クロスバーケーブル(光)を取り付ける

1. SPARC M10-4Sおよびクロスバーボックスにクロスバーケーブル(光)を2本ず つ接続します。

クロスバーケーブル(光)は2種類あります。同一ポート番号に、同じ種類のケー ブルを接続してください。タブの形状により判別できます。タブ形状は図8-7を 参照してください。

図 8-35 クロスバーケーブル(光)の形状とタブ



図中番号	
1	タブ

クロスバーケーブル(光)のコネクター本体を持ち、開口部に対してまっすぐ挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでください。

## 『SPARC M10 システム版 PCIボック ス サービスマニュアル』の変更内容

ここでは、現在確認されている、『SPARC M10 システム版 PCIボックス サービスマ ニュアル』の変更内容を示します。

表 8-4 『SPARC M10 システム版 PCIボックス サービスマニュアル』の変更内容

項番または項目	変更内容
1.2	「1.2 ラベル/タグ」の規格ラベルに記載される認定規格は、以下に変更されます。 安全:NRTL/C 電波:VCCI-A、FCC-A、DOC-A、KCC、C-Tick 安全と電波:CE、GOST-R
8.4.1	「8.4.1 リンクボードにアクセスする」の手順1にある注が変更されます。詳細は「リ ンクボードにアクセスする」を参照してください。
8.5.2	「8.5.2 筐体を復元する」の手順2にある注が以下に変更されます。 注ーケーブルは、保守前の記録に従って元の位置に正確に接続してください。リン クケーブル(電気)またはリンクケーブル(光)のコネクター本体を持ち、開口部 に対してまっすぐ挿入してください。挿入のさい、ケーブル部分を持たないでくだ さい。
10.2.3	「10.2.3 交換時の留意事項」が変更されます。詳細は「交換時の留意点」を参照し てください。

### リンクボードにアクセスする

1. 保守対象のリンクボードに接続されているリンクケーブル2本とマネジメント ケーブル1本を取り外します。

**注**-ケーブルは、接続位置を正確に復元できるよう記録してから取り外してください。 リンクケーブル(電気)またはリンクケーブル(光)のタブ(図中A)を持ち、ケーブル側 にまっすぐ引っ張り取り外します。このとき、ケーブル部分を持って引き抜かないでくださ い。ケーブル部分を引っ張ると、コネクターのロックが完全に解除されずに、破損の原因と なります。 図 8-36 リンクケーブルの取り外し



### 交換時の留意点

リンクケーブル交換時には、次の点に注意してください。

リンクケーブルは使用前に両端コネクターに同じ番号(0または1)のラベルが貼られていることを確認してください。
 ラベルが貼られていない場合は、リンクケーブルに同梱されているラベルを、両端コネクターで同じ番号になるように貼り付けてください。正しく貼り付けられたラベルの状態は図8-37を、貼り付け位置は図8-38および8-39を参照してください。







図中番号	説明
1	ラベル

図 8-39 リンクケーブル(光)のラベル位置



図中番号	説明
1	ラベル

## 『SPARC M10 システム システム運 用・管理ガイド』の変更内容

ここでは『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の変更内容を示します。

表 8-5 『SPARC M10 システム システム運用・管理ガイド』の変更内容

項番	変更内容		
11.2.2	「11.2.2 制御ドメインにOpenBoot PROM環境変数を設定する」の操作手順2にある コマンドの指定方法は、次のように変更されます。 XSCF> setpparparam -p 0 -s boot-script "setenv auto-boot? true"		
12.2.10	SPARC M10-4/M10-4SでハードウェアRAIDボリュームを再有効化する手順は、PCI バックプレーン交換後ではなく、CPUメモリユニット(下段)交換後に必要です。 したがって、「12.2.10 ハードウェアRAIDボリュームを再有効化する」の冒頭の記述 が以下に修正されます。 ここでは、SPARC M10-4/M10-4SのCPUメモリユニット(下段)、またはSPARC M10-1のマザーボードユニットを交換したあと、ハードウェアRAIDボリュームを再 有効化する方法を説明します。		
18.1.3	<ul> <li>「18.1.3 ファームウェアをアップデートする」の手順3の一部は、以下に変更されます。</li> <li>3. flashupdateコマンドを実行し、新しい版数にファームウェアをアップデートできるかを確認します。</li> <li>XSCF&gt; flashupdate -c check -m xcp -s 2020</li> <li>XCP update is started. [3600sec]</li> <li>0XSCF&gt;</li> <li>showresult(8)コマンドの終了値が0の場合、アップデートできます。</li> </ul>		
付録A	付録AにSPARC M10システムのデバイスパス一覧が追加されます。 詳細は、SPARC M10-1の場合は「SPARC M10-1のデバイスパス」、SPARC M10-4の 場合は「SPARC M10-4のデバイスパス」、SPARC M10-4Sの場合は「SPARC M10-4Sのデバイスパス」を参照してください。		

## 『SPARC M10 システム ドメイン構築 ガイド』の変更内容

ここでは『SPARC M10 システム ドメイン構築ガイド』の変更内容を示します。

表 8-6 『SPARC M10 システム	ドメイン構築ガイド』の変更内容
-----------------------	-----------------

項番	変更内容
はじめに	「関連マニュアル」にある富士通マニュアルのURLが、以下に変更されます。 ■ 富士通マニュアル
	http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual
	「マニュアルへのフィードバック」にある日本語サイトのURLが、以下に変更され ます。 ■ 日本語サイト http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual
3.6	「表3-5 PPARに設定可能なモード」の「省電力機能」の「設定可能なモード」は以下に変更されます。 有効/無効(初期設定値)
4.3.2	<ul> <li>「4.3.2 デフォルトサービスを設定する」の「ldm add-vdsコマンド」にある「ldom」の説明は、以下に変更されます。</li> <li>Idom 論理ドメイン名を指定します。制御ドメインの名前はprimaryです。なお、制御ドメイン以外の論理ドメインを指定すると、その論理ドメインがコンソールの出力先になります。 Idm add-vccコマンドを実行したあと、ldm add-vccコマンドで指定した論理ドメインに対してsvcadm enableコマンドを使用し、仮想ネットワーク端末サーバデーモン (vntsd) を有効にします。 # svcadm enable svc:/ldoms/vntsd</li></ul>

## 『SPARC M10 システム XSCFリファ レンスマニュアル』の変更内容

ここでは、SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュアルの変更内容を示します。

なお、『SPARC M10 システム XSCF リファレンスマニュアル』の変更内容は、特に 断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの 情報よりもここでの内容が優先されます。

表 8-7 『SPARC M10 システム XSCFリファレンスマニュアル』の変更内容

項番またはコマンド	変更内容
Intro(1)	以下のコマンド名が訂正されます。 誤 : dumpcondactivation 正 : dumpcodactivation
restoredefaults(8)	CPUコアアクティベーションキーの情報も含めて出荷時の状態に初期化するための、以下のオプションが追加されます。 -r activation CPUコアアクティベーションキーを削除します。-c factoryを指定しても、-rオプションを指定しないと、CPUコアアクティベーションキーは消去されません。 -c xscfと一緒に指定することはできません。
setpparparam(8)	使用例5のコマンド入力例が以下に訂正されます。 XSCF> setpparparam -p 0 -s bootscript "setenv auto-boot? true setenv input-device virtual-console setenv output-device virtual-console"

# 『SPARC M10 システム はじめにお読 みください』の変更内容

表 8-8	<b>SPARC M10</b>	システムは	じめにお読み。	ください』	の変更内容
-------	------------------	-------	---------	-------	-------

項番または項目	変更内容
SPARC M10 システムド キュメントファイルへの アクセス	SPARC M10 システムマニュアルの日本語サイトのURLが、以下に変更されます。 http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual/
マニュアルへのフィード バック	日本語サイトのURLが、以下に変更されます。 http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparc/manual/

# <u>付録 A</u>

## SPARC M10-1のケーブルキットを保 守する

ここでは、ケーブルキットの保守手順を説明します。

- ケーブルキットの位置
- ケーブルキットを保守する前に
- ケーブルキットを取り外し可能な状態にする
- ケーブルキットを取り外す
- ケーブルキットを取り付ける
- システムを復元する

## ケーブルキットの位置

ここでは、ケーブルキットの位置を説明します。 ケーブルキットは、マザーボードユニットとPSUバックプレーンを接続する4本のケー ブルで構成されています。

図 A-1 ケーブルキットの位置



位置番号	コンポーネント
1	ケーブルキット

# ケーブルキットを保守する前に

ここでは、ケーブルキットの保守の形態や保守のながれを説明します。

**注**-保守作業を始める前には、ここでの説明を必ず確認してください。また、「第1章 保守作業を始める前に」の内容も確認してください。

### 保守の形態

ケーブルキットの保守は、表A-1で示す形態があります。保守の定義については、 「4.3 保守の形態を理解する」を参照してください。

表 A-1 ケーブルキットの保守形態

活性/通電	非活性/停電(システム停止)
なし	あり

## ケーブルキットを取り外し可能な状態 にする

ここでは、ケーブルキットを取り外す準備を説明します。



**注意**-システムを完全に停止させるには、電源コードをすべて取り外す必要がありま す。電源コードを取り外さないと、電気的故障が発生する可能性があります。

- 1. **XSCF**シェルにログインします。
- 2. showlogsコマンドを実行し、保守対象のケーブルキットを特定します。

XSCF> showlogs error

詳細は、「3.3.5 ログ情報を確認する」を参照してください。

- 3. システムを停止します。 詳細は、「5.2 システムを停止する」を参照してください。
- 4. ラックの扉を開けます。
- 5. **電源ユニットから電源コードをすべて取り外します**。 詳細は、「5.3.1 電源コードを取り外す」を参照してください。

**注**-二系統受電時は、電源コードを正確に復元するため、接続位置を記録してから取り外し てください。

## ケーブルキットを取り外す

ここでは、ケーブルキットを取り外す手順を説明します。 ケーブルキットを取り外す前に、取り外し可能な状態にしてから作業を行ってください。 詳細は、「ケーブルキットを取り外し可能な状態にする」を参照してください。



注意-コンポーネントを取り扱う前に、必ず静電気除去用のリストストラップを装着 してください。リストストラップを装着せずに作業すると、電子部品およびシステム に重大な損傷を引き起こすおそれがあります。詳細は、「1.4 静電気に関する注意事 項」を参照してください。

### ケーブルキットにアクセスする

- 1. **電源ユニットをすべて取り外します**。 詳細は、「9.4 電源ユニットを取り外す」を参照してください。
- 2. 筐体をラックから引き出します。
   詳細は、「5.3.2 筐体をラックから引き出す」を参照してください。
- 3. ファン部カバーを開けます。 詳細は、「5.3.3 ファン部カバーを開ける」を参照してください。
- 4. 上部カバーを取り外します。 詳細は、「5.3.4 上部カバーを取り外す」を参照してください。
- 5. **エアーダクトとPSUバックプレーンカバーを取り外します。** 詳細は、「5.3.5 エアーダクトとPSUバックプレーンカバーを取り外す」を参照し てください。

### ケーブルキットを取り外す

1. **PSU**バックプレーンとマザーボードユニットを接続するマザーボードユニット側 のケーブル**3**本を取り外します。

**注**-ケーブルは、正確に復元するため、接続位置を記録してから取り外してください。

図 A-2 マザーボードユニットのケーブル



2. **PSU**バックプレーンのねじ1本を緩めます。



3. **PSU**バックプレーンを筐体背面側にスライドさせて固定ピン**2**本(図中**A**)から 外します。



4. **PSU**バックプレーンを持ち上げ、ケーブル4本(図中A)を取り外します。

注-ケーブルは、正確に復元するため、接続位置を記録してから取り外してください。 注-取り外したPSUバックプレーンは、接地された静電気除去用の導電マットの上に置いて ください。





## ケーブルキットを取り付ける

ここでは、ケーブルキットを取り付ける手順を説明します。

### ケーブルキットを取り付ける

1. **PSU**バックプレーンを持ち、ケーブル**4**本(図中**A**)を接続します。

図 A-6 PSUバックプレーンのケーブル



- 2. **PSU**バックプレーンを取り付けます。
- 3. 固定ピン**2**本が**PSU**バックプレーンに挿入されていることを確認し、**PSU**バック プレーンを筐体背面側にスライドさせます。
- 4. **PSU**バックプレーンのねじ1本を締めます。
- 5. **PSU**バックプレーンとマザーボードユニットを接続するケーブル**3**本を接続します。

図 A-7 マザーボードユニットのケーブル



### 筐体を復元する

- 1. **エアーダクトとPSUバックプレーンカバーを取り付けます。** 詳細は、「6.3.1 エアーダクトとPSUバックプレーンカバーを取り付ける」を参照 してください。
- 2. 上部カバーを取り付けます。 詳細は、「6.3.2 上部カバーを取り付ける」を参照してください。
- 3. ファン部カバーを閉めます。 詳細は、「6.3.3 ファン部カバーを閉める」を参照してください。
- 電源ユニットをすべて取り付けます。
   詳細は、「9.5 電源ユニットを取り付ける」を参照してください。

## システムを復元する

ここでは、PSUバックプレーンを取り付けたあとでシステムを復元する手順を説明します。

- 1. **筐体をラックに収納します**。 詳細は、「6.3.4 筐体をラックに収納する」を参照してください。
- 2. 電源ユニットに電源コードをすべて接続します。

   詳細は、「6.3.5 電源コードを取り付ける」を参照してください。

**注**-二系統受電時は、保守前の記録に従って電源コードを元の位置に正確に接続してください。

- オペレーションパネルのXSCF STANDBY LEDが点灯していることを確認します。
- 4. オペレーションパネルのモードスイッチをLockedモードに切り替えます。 詳細は、「2.2.2 オペレーションパネルのスイッチ」を参照してください。
- 5. **XSCF**シェルにログインします。
- 6. システムを起動します。 詳細は、「6.2 システムを起動する」を参照してください。
- 7. ラックの扉を閉めます。

## <u>付録 B</u>

## クロスバーボックスのケーブルキット を保守する

ここでは、クロスバーボックスに搭載されているケーブルキットの保守手順を説明します。

- ケーブルキットの構成
- ケーブルキットを保守する前に
- ケーブルキットを取り外し可能な状態にする
- ケーブルキットを取り外す
- ケーブルキットを取り付ける
- システムを復元する

## ケーブルキットの構成

ここでは、ケーブルキットの構成と位置を説明します。 ケーブルキットは、クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード間および ターミナルボード-ファンバックプレーン間を接続するためのケーブル群です。 ケーブルキットは次のケーブルで構成されています。

### クロスバーバックプレーンユニット-ターミナル ボード間を接続するためのケーブル

 ケーブル (SIG) クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード (SIG) 間を接続するため のケーブル

図 B-1 ケーブル (SIG) (クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード 間)



位置番号	コンポーネント
1	コネクター(ターミナルボード(SIG)側)
2	コネクター(クロスバーバックプレーンユニット側)

 ケーブル (PWR) クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード (PWR) 間を接続するため のケーブル

#### 図 B-2 ケーブル (PWR) (クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボー ド間)



位置番号	コンポーネント
1	コネクター (ターミナルボード (PWR) 側)
2	コネクター (クロスバーバックプレーンユニット側)

### ターミナルボード-ファンバックプレーン間を接続 するためのケーブル

 ケーブル(PWR) ターミナルボード-ファンバックプレーン(PWR)間を接続するためのケーブル

図 B-3 ケーブル (PWR) (ターミナルボード-ファンバックプレーン間)



位置番号	コンポーネント
1	コネクター (ターミナルボード側)
2	コネクター(ファンバックプレーン(PWR)側)

 ケーブル (SIG) ターミナルボード-ファンバックプレーン (SIG) およびオペレーションパネル間 を接続するためのケーブル

図 B-4 ケーブル (SIG) (ターミナルボード-ファンバックプレーン/オペレー ションパネル間)



位置番号	コンポーネント
1	コネクター (ターミナルボード側)
2	コネクター(ファンバックプレーン(SIG)側)
3	コネクター (オペレーションパネル側)

### ケーブルキットの位置

ケーブルキットの接続位置は、次のとおりです。




位置番号	コンポーネント	接続
1	ケーブル(SIG)	クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード(SIG)
2	ケーブル (PWR)	クロスバーバックプレーンユニット-ターミナルボード(PWR)
3	ターミナルボード	
4	ケーブル(SIG)	ターミナルボード(SIG)-ファンバックプレーン
5	ケーブル (PWR)	ターミナルボード(PWR)-ファンバックプレーン

# ケーブルキットを保守する前に

ここでは、ケーブルキットの保守の形態および保守のながれを説明します。

注-保守作業を始める前には、ここでの説明を必ず確認してください。また、「第1章 保守作 業を始める前に」の内容も確認してください。

#### 保守の形態

ケーブルキットの保守は、表B-1で示す形態があります。保守の定義については、 「4.3 保守の形態を理解する」を参照してください。

構成	活性/通電	活性/停電	非活性/通電	非活性/停電	システム停止	
ビルディングブロック構成	なし	なし (*1)	なし	なし(*1)	あり (*2)	

1. 稼働中の物理パーティションの電源を切断し、システムを完全に停止させる必要があります。

2: すべての物理ハーティジョンの电源を切倒し、システムを元主に停止させる必要があります。

#### 保守のながれ

ケーブルキットの保守は、表B-2に示す順に作業します。

表 B-2 保守のながれ

作業内容		交換
1	事前準備	ケーブルキットを取り外し可能な状態にする
2	ケーブルキットの取り外し	ケーブルキットを取り外す
3	ケーブルキットの取り付け	ケーブルキットを取り付ける
4	システムの復元	システムを復元する

### ケーブルキットを取り外し可能な状態 にする

ここでは、ケーブルキットを取り外す準備を説明します。



**注意**-システムを完全に停止させるには、電源コードをすべて取り外す必要がありま す。電源コードを取り外さないと、電気的故障が発生する可能性があります。

- 1. **XSCF**シェルにログインします。
- 2. showlogsコマンドを実行し、保守対象のコンポーネントを特定します。

XSCF> showlogs error

詳細は、「3.3.5 ログ情報を確認する」を参照してください。

- 3. **すべての物理パーティションの電源を切断します。** 詳細は、「5.2 保守対象の物理パーティションの電源を切断する」を参照してく ださい。
- 4. replacefruコマンドを実行し、保守対象のクロスバーバックプレーンユニットを

システムから切り離します。

XSCF> replacefru

詳細は、「5.1 replacefruコマンドでFRUをシステムから切り離す」を参照してく ださい。

6. 保守対象のクロスバーボックスの電源ユニットから電源コードをすべて取り外します。

詳細は、「5.4.2 電源コードを取り外す」を参照してください。

**注**-二系統受電時は、電源コードを正確に復元するため、接続位置を記録してから取り外し てください。

### ケーブルキットを取り外す

ここでは、ケーブルキットを取り外す手順を、ケーブルの接続先ごとに説明します。 ケーブルの接続先は、「ケーブルキットの構成」を参照してください。 ケーブルキットを取り外す前に、取り外し可能な状態にしてから作業を行ってください。 詳細は、「ケーブルキットを取り外し可能な状態にする」を参照してください。



**注意**-コンポーネントを取り扱う前に、必ず静電気除去用のリストストラップを装着 してください。リストストラップを装着せずに作業すると、電子部品およびシステム に重大な損傷を引き起こすおそれがあります。詳細は、「1.5 静電気に関する注意事 項」を参照してください。

### クロスバーバックプレーンユニット-ターミナル ボード間のケーブルを取り外す

クロスバーバックプレーンユニットとターミナルボードを接続する、ケーブル (SIG) またはケーブル (PWR) を取り外します。

- 1. フロントカバーを取り外します。 詳細は、「5.4.3 フロントカバーを取り外す」を参照してください。
- 2. ファンユニットをすべて取り外します。 詳細は、「19.4 ファンユニットを取り外す」を参照してください。
- 3. 上カバーのねじ2本(図中A)を緩め、左右のストッパー(図中B)を内側にスラ イドさせてから上カバー(図中C)を取り外します。



- 4. 下カバー(図中A)のねじ1本を緩め、下カバーを左側にスライドさせて取り外 します。
- 図 B-7 下カバーの取り外し



5. **ファンシェルフに接続されているケーブル2本をコネクターから外します**。 外したケーブルは中央に揃えておいてください。



6. ファンシェルフのねじ3本を緩め、ファンシェルフを途中まで引き出します。



図 B-9 ファンシェルフの取り外し

7. ファンシェルフを片方の手で下から支え、慎重に筐体から取り外します。

**注**-中央に揃えたケーブル2本に注意しながら、ファンシェルフを取り外してください。 注-取り外したファンシェルフは、接地された静電気除去用の導電マットの上に置いてください。

 クロスバーバックプレーンユニットに接続されているケーブルをコネクターから 外します。 図 B-10 ケーブルの取り外し (ケーブル (SIG) の場合)





9. クランプからケーブルを取り外します。

図 B-12 ケーブルの取り外し



#### ターミナルボード-ファンバックプレーン間の ケーブルを取り外す

ターミナルボードとファンバックプレーンを接続する、ケーブル (SIG) またはケー ブル (PWR) を取り外します。

- 1. フロントカバーを取り外します。 詳細は、「5.4.3 フロントカバーを取り外す」を参照してください。
- 2. ファンユニットをすべて取り外します。 詳細は、「19.4 ファンユニットを取り外す」を参照してください。
- 3. 上カバーのねじ2本(図中A)を緩め、左右のストッパー(図中B)を内側にスラ イドさせてから上カバー(図中C)を取り外します。

図 B-13 上カバーの取り外し



- 4. 下カバー(図中A)のねじ1本を緩め、下カバーを左側にスライドさせて取り外 します。
- 図 B-14 下カバーの取り外し



5. ファンシェルフに接続されているケーブル2本をコネクターから外します。 外したケーブルは中央に揃えておいてください。



6. ファンシェルフのねじ3本を緩め、ファンシェルフを途中まで引き出します。





7. ファンシェルフを片方の手で下から支え、慎重に筐体から取り外します。

**注**-中央に揃えたケーブル2本に注意しながら、ファンシェルフを取り外してください。 注-取り外したファンシェルフは、接地された静電気除去用の導電マットの上に置いてください。

8. ファンバックプレーンに接続されているケーブルをコネクターから外します。

図 B-17 ケーブルの取り外し (ケーブル (PWR) の場合)



図 B-18 ケーブルの取り外し (ケーブル (SIG) の場合)



9. ファンシェルフとオペレーションパネルを接続するケーブルの、オペレーション

**パネル側のコネクターからケーブルを取り外します。** この手順は、ケーブル(SIG)を取り外す場合だけ行います。 ケーブル(PWR)を取り外す場合は手順10に進んでください。

図 B-19 オペレーションパネルのケーブル



- 10. ターミナルボードからケーブルを取り外します。
  - ケーブル (PWR)の場合は、マイナスドライバーで下側のラッチ (図中A) を上に押しながら、コネクターを奥に押し込みます。下側のラッチ (図中A) がターミナルボードの奥に押し込まれたことを確認します。上側のラッチを マイナスドライバーで下に押しながら、コネクターを奥に押し込みます。

図 B-20 ケーブルの取り外し (ケーブル (PWR)の場合)



 ケーブル(SIG)の場合は、プラスドライバー(ビットNo.1)にて、ケーブ ルコネクターのねじ2本を外し、ターミナルボードからケーブルを取り外しま す。

図 B-21 ケーブルの取り外し (ケーブル (SIG) の場合)



11. クランプからケーブルを取り外します。

図 B-22 ケーブルの取り外し (ケーブル (PWR) の場合)



図 B-23 ケーブルの取り外し(ケーブル(SIG)の場合)



# ケーブルキットを取り付ける

ここでは、ケーブルキットを取り付ける手順を、ケーブルの接続先ごとに説明します。 ケーブルの接続先は、「ケーブルキットの構成」を参照してください。 取り外したケーブルと同じ形状のケーブルを取り付けてください。

#### クロスバーバックプレーンユニット-ターミナル ボード間のケーブルを取り付ける

クロスバーバックプレーンユニットとターミナルボードを接続する、ケーブル (SIG) またはケーブル (PWR) を取り付けます。

1. **クロスバーバックプレーンユニットのコネクターにケーブルを接続します**。 取り外したケーブルと同じ形状のケーブルを取り付けます。 図 B-24 コネクター形状 (ケーブル (SIG) の場合)



2. ケーブルをクランプで固定します。

- 3. ファンシェルフを片方の手で下から支え、慎重に筐体に挿入します。 ケーブルを中央に揃えておくと、ファンシェルフが取り付けやすくなります。
- 4. ファンシェルフのねじ3本を締めます。
- 5. ファンシェルフにケーブル2本を取り付けます。
- 6. 下カバーを取り付け、ねじ1本を締めます。
- 7. 上カバーを取り付けます。
- 8. 上カバーにある左右のストッパーを外側にスライドさせ、ねじ2本を締めます。
- 9. ファンユニットをすべて取り付けます。 詳細は、「19.5 ファンユニットを取り付ける」を参照してください。
- 10. フロントカバーを取り付けます。 詳細は、「6.4.3 フロントカバーを取り付ける」を参照してください。

#### ターミナルボード-ファンバックプレーン間のケー ブルを取り付ける

ターミナルボードとファンバックプレーンを接続する、ケーブル (SIG) またはケー ブル (PWR) を取り付けます。

1. ターミナルボードにケーブルを取り付けます。

 ケーブル (PWR)の場合は、両端にラッチ (図中A)が付いている側のコネ クターをターミナルボードに取り付けます。
 コネクターのタブ (図中B)をターミナルボードの切り欠き (図中C) に合わ せて取り付けてください。



ケーブル(SIG)の場合は、ねじ穴のあるコネクターをターミナルボードに取り付けます。

ねじは、取り外したものを使います。取り付けはプラスドライバー(ビット No.1)を使用します。取り付けのさいには、図B-26に示す点マーク(図中A) が左となるように取り付けます。 図 B-26 ケーブルの取り付け (ケーブル (SIG)の場合)



2. ファンバックプレーンのコネクターにケーブルを接続します。

 ファンシェルフとオペレーションパネルを接続するケーブルの、オペレーション パネル側のコネクターにケーブルを接続します。
 この手順は、ケーブル (SIG) を取り付ける場合だけ行います。
 ケーブル (PWR) を取り付ける場合は手順4に進んでください。 図 B-27 オペレーションパネルのケーブル



4. ケーブルをクランプで固定します。



図 B-29 ケーブルの固定 (ケーブル (SIG) の場合)



- 5. ファンシェルフを片方の手で下から支え、慎重に筐体に挿入します。 ケーブルを中央に揃えておくと、ファンシェルフが取り付けやすくなります。
- 6. ファンシェルフのねじ3本を締めます。
- 7. ファンシェルフにケーブル2本を取り付けます。
- 8. 下カバーを取り付け、ねじ1本を締めます。
- 9. 上カバーを取り付けます。
- 10. 上カバーにある左右のストッパーを外側にスライドさせ、ねじ2本を締めます。
- 11. ファンユニットをすべて取り付けます。 詳細は、「19.5 ファンユニットを取り付ける」を参照してください。
- 12. フロントカバーを取り付けます。 詳細は、「6.4.3 フロントカバーを取り付ける」を参照してください。

### システムを復元する

ここでは、ケーブルキットの取り付け後にシステムを復元する手順を説明します。

1. 保守対象のクロスバーボックスの電源ユニットに電源コードをすべて接続しま す。

詳細は、「6.4.1 電源コードを取り付ける」を参照してください。

**注**-二系統受電時は、保守前の記録に従って電源コードを元の位置に正確に接続してください。

- XSCFファームウェアのreplacefruコマンドの操作に戻り、クロスバーバックプレーンユニットがシステムに組み込まれたことを確認します。
  詳細は、「6.1 replacefruコマンドでFRUをシステムに組み込む」を参照してください。
- 3. クロスバーケーブルの診断を行います。
  - クロスバーケーブルが接続されている筐体のシステムボードが物理パーティションに組み込まれていない、または組み込まれた物理パーティションの電源が切断されている場合
    bb\_id:診断を開始する筐体のBB-IDを入力します。
    target\_bb:クロスバーケーブルが接続されている筐体のBB-IDを入力します (複数指定可能)。

XSCF> diagxbu -y -b bb\_id -t target\_bb

クロスバーケーブルが接続されている筐体のシステムボードが物理パーティションに組み込まれており、その物理パーティションの電源が投入されている場合
 bb\_id:診断を開始する筐体のBB-IDを入力します。
 ppar\_id:クロスバーケーブルが接続されている筐体のPPAR-IDを入力します(1つだけ指定可能)。

XSCF> diagxbu -y -b bb id -p ppar id

4. showlogsコマンドを実行し、エラーが発生していないことを確認します。

XSCF> showlogs error

詳細は、「3.3.5 ログ情報を確認する」を参照してください。

5. **すべての物理パーティションの電源を投入します。** 詳細は、「6.2 保守対象の物理パーティションの電源を投入する」を参照してく ださい。